

Web Diagram

ユーザーズガイド

「Web Diagram Ver.19 ユーザーズガイド」©Sunplanning Systems.Co.Ltd. All rights reserved.

(株) サン・プランニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳することも禁止されています。

目次

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 第 1 章 | Web Diagram の利用 | 5 |
| 1. | 概要 | 5 |
| 1.1 | クライアントツールとの関連 | 5 |
| 1.2 | 用語の理解 | 7 |
| 1.3 | 図表の種類 | 8 |
| 1.4 | 共通操作 | 12 |
| 1.5 | キーボードショートカットキーの利用 | 12 |
| 2. | Web Diagram の作成 | 14 |
| 2.1 | オブジェクトの追加 | 14 |
| 2.2 | 図表の編集 (チェックアウト) | 16 |
| 2.3 | 編集の取消し (チェックアウトを元に戻す) | 17 |
| 2.4 | リポジトリに格納 (チェックイン) | 17 |
| 3. | 画面構成 | 19 |
| 3.1 | ツールバー | 19 |
| 3.2 | ツールボックス | 21 |
| 3.3 | 書式アイコン | 24 |
| 第 2 章 | フローチャートを作成する | 29 |
| 1. | プールとレーン | 29 |
| 1.1 | プールの作成 | 29 |
| 1.2 | プール名称の変更 | 30 |
| 1.3 | プールの移動 | 30 |
| 1.4 | プールのサイズ変更 | 31 |
| 1.5 | プールの削除 | 31 |
| 2. | 図形 | 32 |
| 2.1 | 図形パレットの表示 | 32 |
| 2.2 | 図形ライブラリの表示 | 32 |
| 2.3 | 図形の配置方法 | 33 |
| 2.4 | 図形の移動 | 35 |
| 2.5 | オブジェクトの複数選択 | 35 |
| 2.6 | メッセージグラフィック図形の配置 | 36 |
| 2.7 | 図形テキストの入力 | 37 |
| 2.8 | 図形の追加 | 41 |
| 2.9 | 図形の削除 | 42 |
| 2.10 | 排他ゲートウェイ図形の利用 | 42 |
| 2.11 | 図形の置換 | 44 |
| 2.12 | 図形の書式 | 45 |

| | | |
|-----|--------------|----|
| 3. | 接続線 | 48 |
| 3.1 | 図形の接続 | 48 |
| 3.2 | 接続線の編集 | 49 |
| 第3章 | フローチャートを整える | 50 |
| 1. | 配置・整列 | 50 |
| 1.1 | 図形の揃え | 50 |
| 1.2 | 図形の均等配置 | 50 |
| 1.3 | 図形の重なる順番 | 51 |
| 1.4 | 図形のサイズ揃え | 51 |
| 2. | 図形番号 | 51 |
| 2.1 | 図形番号の表示方法 | 52 |
| 2.2 | 図形番号の付け直し | 53 |
| 第4章 | 画面を操作する | 56 |
| 1. | ウィンドウ操作 | 56 |
| 1.1 | 画面表示の拡大と縮小 | 56 |
| 第5章 | フローチャートを活用する | 58 |
| 1. | さまざまな表記機能 | 58 |
| 1.1 | グリッド | 58 |
| 1.2 | フェーズ | 59 |
| 1.3 | テキスト | 61 |
| 1.4 | メモ | 62 |
| 1.5 | リンク | 65 |
| 1.6 | サブ図表の追加 | 68 |
| 第6章 | フローチャートを公開する | 72 |
| 1. | 印刷 | 72 |
| 1.1 | ページ設定 | 72 |
| 1.2 | PDFに印刷 | 73 |
| 2. | 保存 | 74 |
| 2.1 | ファイルにエクスポート | 74 |

第1章 Web Diagram の利用

本ガイドでは Process360 Live Process Design の機能である Web Diagram に特化して機能や操作方法をご説明します。Process360 Live Process Design についての説明については、別紙「Process360 Live Process Design ユーザーズガイド (Web 版)」を合わせてご覧ください。

※Web Diagram の利用には Designer 以上のライセンスが必要です。

1. 概要

Web Diagram は、Process360 Live Process Design の機能で、業務フローを作成するための使用しやすいビジネスグラフィックソリューションです。

Web Diagram には、業務マニュアルを作成するのに適した機能や、BPMN 対応機能も含まれています。

組織の各担当者は、この直感的なソリューションを使用して、業務フローを作成することができます。

1.1 クライアントツールとの関連

クライアントツールの iGrafx FlowCharter で作成したフローチャートと Web Diagram は相互に変換ができます。

※クライアントツールと Web Diagram で同じ業務フローを編集しあえるわけではありません。別業務フローとして作成されます。

※SOX+、BPR+、HACCP クリエータといったアドオン機能を利用したデータはご利用いただけません。



1) Web Diagram を iGrafx FlowCharter で編集

iGrafx FlowCharter にてリポジトリを開き、Web Diagram 図表を右クリックし、「ドキュメントの作成」を選択します。

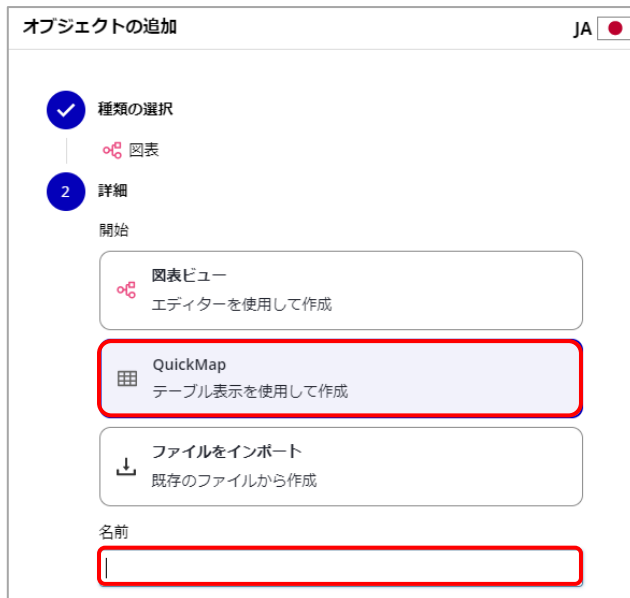


iGrafx FlowCharter で編集可能な形に変換されます。「名前をつけて保存」にてファイル形式を指定の上保存してください。

2) iGrafx ドキュメントから Web Diagram への変換

操作方法については、P9「第1章 1.3.2) QuickMap ビュー

QuickMap を選択し、追加する図表の名前を入力の上「完了」ボタンをクリックします。



QuickMap ではテーブル表示されている図形行に、各要素列を入力しながら作成します。

図形を追加する場合は、「行の追加」を選択します。

画面下部では、プレビュー画面で作成後のフローチャートが確認できます。

QuickMap_受注登録

アクション

| ステップ | ステータス | 実行したアクション | 実行者 | リソース | リスク | コントロール | |
|------|-------|-----------|-----|------|-----|--------|--|
| 1 | 2 | 開始 | 営業部 | | | | |
| 2 | 終了 | 受注 | 営業部 | | | | |
| 3 | | 終了 | 営業部 | | | | |

元に戻す やり直し 行の追加


プレビュー 100%

営業部

開始 → 受注 → 終了

プレビューを閉じる 破棄 完了

| 要素 | 説明 | デフォルトの設定 |
|-----------|---|----------|
| 実行したアクション | 作業名称を入力します。 | ON |
| 実行者 | 図形が配置されるレーン名を入力します。 入力した名称のレーンが追加され、図形が配置されます。 | ON |
| メモ | 図形ごとにメモを入力を登録できます。 | ON |
| リソース | リポジトリ内で作成済みのリソースオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |
| リスク | リポジトリ内で作成済みのリスクオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |
| コントロール | リポジトリ内で作成済みのコントロールオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |

※要素列の ON/OFF は、アクションの右上の設定アイコン  から設定できます。

設定

列の表示:

すべて リソース

リスク コントロール

メモ

1.2 用語の理解

Web Diagram を操作する上で使用するおもな用語について以下に説明します。

1) 図表

フローチャートを描画するシートを「図表」といいます。

Web Diagram には「BPMN 図表」「一般図表」などの図表があり、図表ごとに持っている機能は異なります。図表が持つ特徴の違いについては、後述の P8 「図表の種類」をご覧ください。

※Web Diagram には「ファイル」という概念はないため、直接図表を追加して業務フローチャートを作成します。

2) テンプレート

フローチャートを作成するための雛形となるファイルを「テンプレート」といいます。

テンプレートは用途に応じてあらかじめ用意されています。

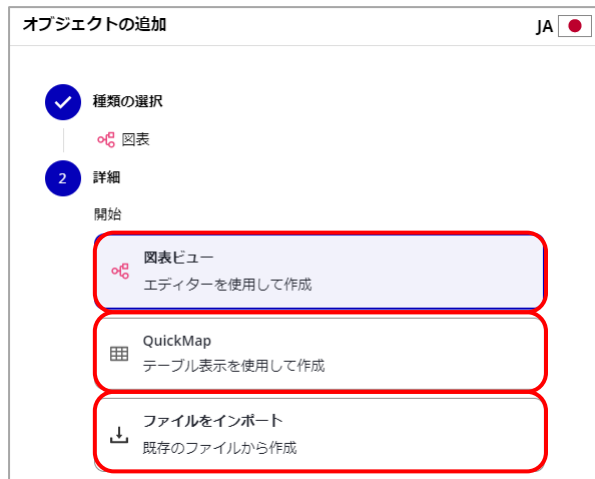
3) 図形ライブラリ

Web Diagram で使用する図形は、用途に合わせて複数のシートに集約されています。

集約されたシートは「図形ライブラリ」といい、フローチャートを作成する時は「図形ライブラリ」の図形をドラッグして図表に配置します。

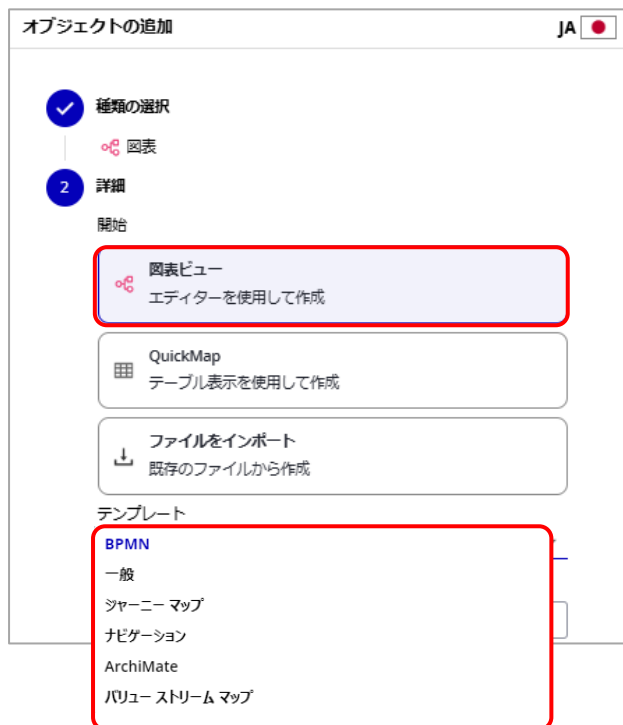
1.3 図表の種類

Web Diagram では、用途に合わせて対応した図表が利用できます。これらを使用してフローチャートやプロセスマップなどを自由に作成することができます。



1) 図表ビュー

図表ビューでは詳細の「テンプレート」より図表のタイプを選択し、追加する図表の名前を入力の上「完了」ボタンをクリックします。



これらを使用してフローチャートやプロセスマップなどを自由に作成することができます。それぞれの図表を開くと関連する図形パレットが

開きます。

| テンプレート | 説明 |
|--------------|--|
| BPMN | BPMN 図表と BPMN 図形が表示され BPMN 規格をサポートしています。 ※BPMN 図形が表示されます。 |
| 一般 | 自由な形式で図表を描画することができます。 ※基本図形が表示されます。 |
| ジャーニーマップ | 自由な形式で図表を描画することができます。 ※ジャーニーマップ図形、顧客、顧客（円内）より選択できます。 |
| ナビゲーションマップ | 自由な形式で図表を描画することができます。 ※基本図形が表示されます。 |
| ArchiMate | エンタープライズアーキテクチャのモデリング言語 ArchMate をサポートしています。 |
| バリューストリームマップ | 図形ライブラリに用意されている VSM 図形を利用して VSM を作成することができます。 |

2) QuickMap ビュー

QuickMap を選択し、追加する図表の名前を入力の上「完了」ボタンをクリックします。

オブジェクトの追加 JA

種類を選択

2 詳細

開始

図表ビュー
エディターを使用して作成

QuickMap
テーブル表示を使用して作成

ファイルをインポート
既存のファイルから作成

名前

QuickMap ではテーブル表示されている図形行に、各要素列を入力しながら作成します。

図形を追加する場合は、「行の追加」を選択します。

画面下部では、プレビュー画面で作成後のフローチャートが確認できます。

QUICKMAP

アクション ⚙️

| ステップ | 🔗 | 実行したアクション | 実行者 | 🗑️ |
|------|----|------------|-----|----|
| 1 | 2 | ● 開始 | 担当者 | + |
| 2 | 終了 | ■ アクティビティ名 | 担当者 | + |
| 3 | | ● 終了 | 担当者 | + |

元に戻す 行の追加

プレビュー - 100% +

```

graph LR
    Start((開始)) --> Activity[アクティビティ名]
    Activity --> End((終了))
  
```

| 要素 | 説明 | デフォルトの設定 |
|-----------|---|----------|
| 実行したアクション | 作業名称を入力します。 | ON |
| 実行者 | 図形が配置されるレーン名を入力します。 入力した名称のレーンが追加され、図形が配置されます。 | ON |
| メモ | 図形ごとにメモを入力を登録できます。 | ON |
| リソース | リポジトリ内で作成済みのリソースオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |
| リスク | リポジトリ内で作成済みのリスクオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |
| コントロール | リポジトリ内で作成済みのコントロールオブジェクトを選択し登録します。 | OFF※ |

※要素列の ON/OFF は、アクションの右上の設定アイコン ⚙️ から設定できます。

設定

列の表示:

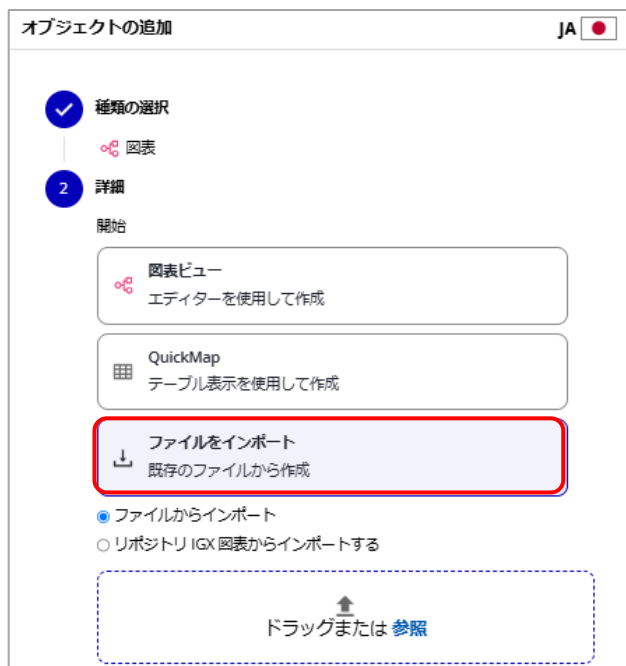
すべて リソース
 リスク コントロール
 メモ

キャンセル
完了

3) ファイルをインポート

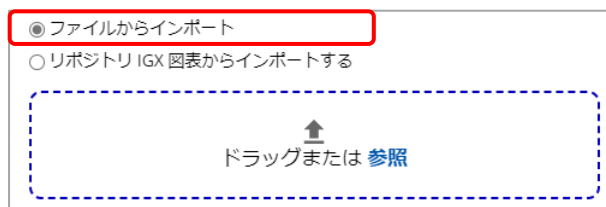
iGrafx FlowChater で作成した図表や Web Diagram からエクスポートしたファイルをインポートし、Web Diagram 図表として新規作成することができます。インポートは、2 通りの方法があります。

拡張子が bpmn, igxw, vsd, vsdx のファイル形式のみインポートが可能です。



◆ ファイルからインポート

ファイルを指定してインポートする場合、「ドラッグまたは参照」ボタンにファイルをドラッグまたは「参照」よりファイルを指定し、「完了」ボタンをクリックします。

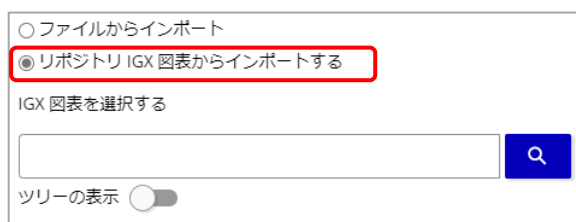


※Web Diagram に拡張子が「bpmn」、「igxw」のファイル形式で保存する場合は、P74「第6章 2.1 ファイルにエクスポート」をご参照ください。

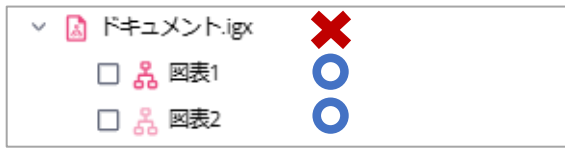
※iGrafx FlowCharcter に拡張子「bpm」のファイル形式で保存する場合は、別途専用モジュールのインストールが必要です。

◆ リポジトリ IGX 図表からインポートする

アクティブなリポジトリ内に格納されている IGX 図表(拡張子.igx)をインポートする場合、検索アイコンまたは「ツリーの表示」をオンにし、ファイルを指定し、「完了」ボタンをクリックします。



※インポート対象は図表のみです。igx ファイルをインポートすることはできません。



※SOX+ BPR+ HACCP クリエータ等のアドオン機能はインポート後の利用はできませんが、ポップアップ表示機能で利用していた記述内容は、メモ機能で確認できます。※詳細は P62「第 5 章 1.4 メモ」をご覧ください。

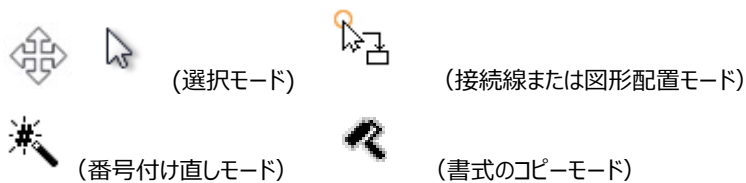


1.4 共通操作

業務フローチャートを作成するにあたり、Web Diagram を迅速に使用できるように、あらかじめ理解して頂きたいツールの仕様や基本的な操作を説明します。

1) マウスポインタのモード

Web Diagram ではメニューやツールバーアイコン、図形を選択すると、マウスポインタの形がコマンドに応じて変化します。



1.5 キーボードショートカットキーの利用

ショートカットキーは、状況に応じて使用すると迅速に作業を進めることができます。ここでは使用頻度の高い便利なショートカットキーをご紹介します。

| ショートカットキー | 説明 |
|-----------|-------|
| Ctrl+C | コピー |
| Ctrl+V | 貼り付け |
| Ctrl+A | すべて選択 |

| | |
|--------|-------------------|
| Ctrl+Z | もとに戻す |
| Ctrl+Y | Ctrl+Z で戻した動作の再実行 |

2. Web Diagram の作成

Web Diagram は、Process360 Live Process Design のモデル領域にフォルダ、図表を作成し、格納します。

2.1 オブジェクトの追加

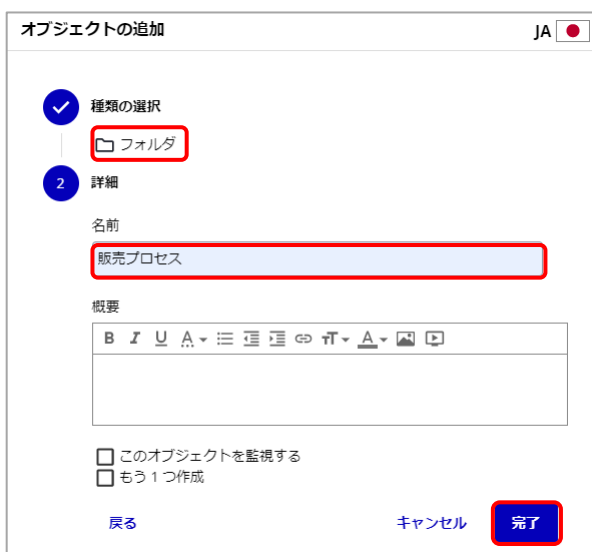
1) フォルダの追加

図表を保管するフォルダを新規作成します。

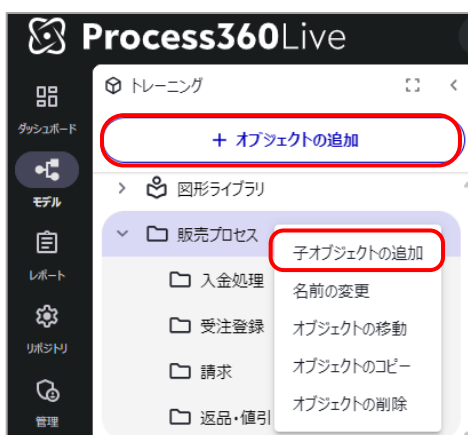
- ① 「オブジェクトの追加」ボタンを選択します。



- ② 種類の選択は、「フォルダ」を選択し、名前を入力して「完了」ボタンをクリックします。

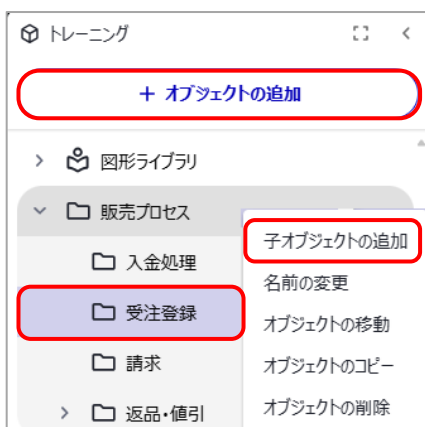


- ③ 作成したフォルダの下階層にフォルダを作成する場合、フォルダを選択し「オブジェクトの追加」ボタンまたは右クリックして「子オブジェクトの追加」を選択して②と同様にフォルダを作成します。
-



2) 図表の追加

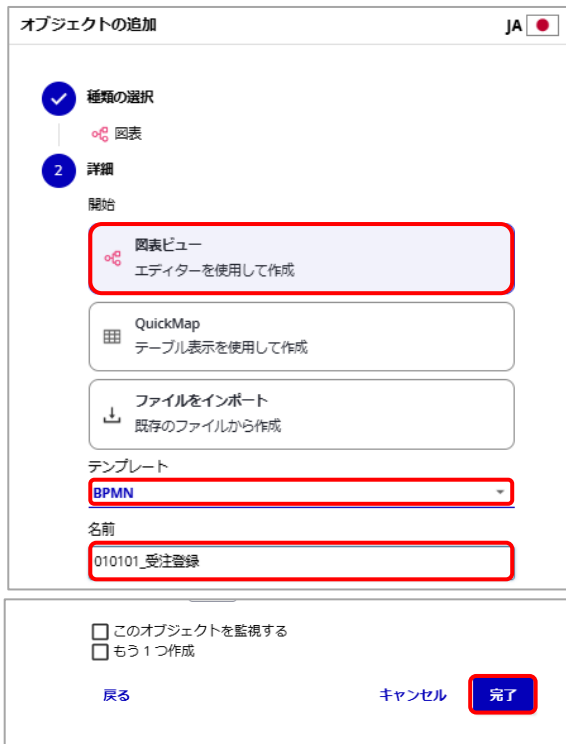
- ① リポジトリより保管するフォルダを選択し、「オブジェクトの追加」ボタンまたは右クリックして「子オブジェクトの追加」を選択します。



- ② 「種類の選択」より「図表」を選択します。



- ③ 「詳細」より図表の種類とテンプレートを選択し、図表の名前を入力し、「完了」ボタンをクリックします。



2.2 図表の編集（チェックアウト）

レポートに格納した図表は、いつでも編集できます。

図表を編集する場合は、「チェックアウト」します。新規作成した図表は、「チェックアウト」された状態で表示されます。

図表は以下の手順でチェックアウトします。

- ① レポートツリーより表示したい図表を選択し、「チェックアウト」コマンドを選択します。



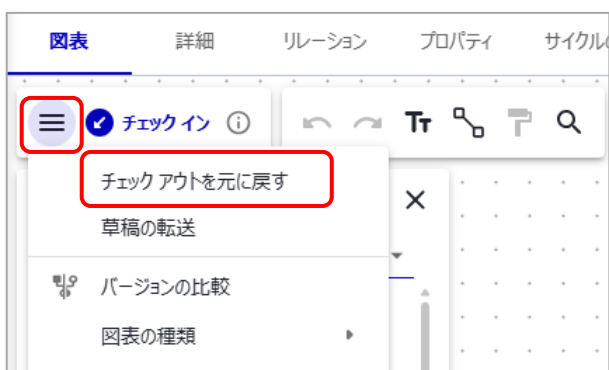
- ② レポートツリーの図表名が太字に変更しチェックアウトされ「チェックイン」コマンドが表示されます。



2.3 編集の取消し（チェックアウトを元に戻す）

チェックアウトしても保存する必要がない場合、または間違えてチェックアウトした場合などは、「チェックアウトを元に戻すことができます。以下の手順でチェックアウトを元に戻します。

- ① 表示画面左上の「メインメニュー」を選択し、「チェックアウトを元に戻す」を選択します。



2.4 リポジトリに格納（チェックイン）

編集した図表をリポジトリに格納する場合は、「チェックイン」します。

リポジトリには以下の手順で格納します。


- ① 「チェックイン」コマンドを選択します。



- ② 「チェックイン」ダイアログボックスが表示されます。「コメント」を入力し、「完了」ボタンをクリックします。



③ リポジットツリーの図表名のフォントの太字は、元のフォントに変更されます。業務フローは編集できません。

 0101001_受注登録

3. 画面構成

Web Diagram の画面は、作図のための各種ツールが用意されています。ここでは頻繁に利用するツールアイコンとツールバーをご説明します。


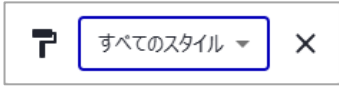




3.1 ツールバー

図表を作成するうえで、よく使用するアイコンが用意されています。




1) 作図アイコン

| アイコン | | 説明 |
|---|---------|---------------------------------|
|  | 元に戻す | 直前の画面を表示します。 |
|  | やり直し | 「元に戻す」を選択すると表示され、取り消した操作を表示します。 |
|  | テキストの追加 | テキストを追加します。 |
|  | 線追加 | 図表上に接続線を引きます。 |

| アイコン | | 説明 |
|---|---|--|
|  | 書式のコピー/貼り付け | 書式のコピー貼り付けをします。 |
| | <p>「書式コピー/貼り付け」アイコンを選択すると下記のツールバーが表示されます。</p>  | 別のダイアログボックスが表示され、「すべてのスタイル」、「テキストのスタイル」、「図形と線のスタイル」を選択します。操作を終了する場合は、「×」を選択します。 |
|  | 図表内で検索 | 図表内に含まれるテキストを検索します。 |
| | <p>「図表内で検索」アイコンを選択すると下記のツールバーが表示されます。</p>  | 「何かをさがす」にテキストを入力します。必要に応じて「完全に一致する単語」、「前の結果」、「次の結果」のアイコンを選択します。操作を終了する場合は、「×」を選択します。 |

2) 閲覧用アイコン

Web Diagram 図表の別形式での表示やコメント追加機能といった、閲覧に関する機能のアイコン群です。

| アイコン | | 説明 |
|---|-----------------|---|
|  | プロセスナラティブの種類の選択 | プロセス（図表）やアクティビティ（図形）に関する情報を独立したウィンドウで表示します。 |
| | ナラティブプロセス | プロセス（図表）やアクティビティ（図形）に関する情報を独立したウィンドウで表示します。「リポジトリ」-「詳細」-「ナラティブのオプション」より指定します。 |
| | SOP のナラティブ | ナラティブオプションの「デフォルトの SOP」に指定したテンプレートがウィンドウで表示します。 |
| | ナラティブの選択 | ナラティブの選択のダイアログボックスより、ナラティブを指定します。独立したウィンドウで表示されます。 |
|  | コメントの追加 | 図表にコメントを追加します。 |
|  | アプリ | 「バージョンの比較」、「メトリックス」を選択します。 |

3.2 ツールボックス

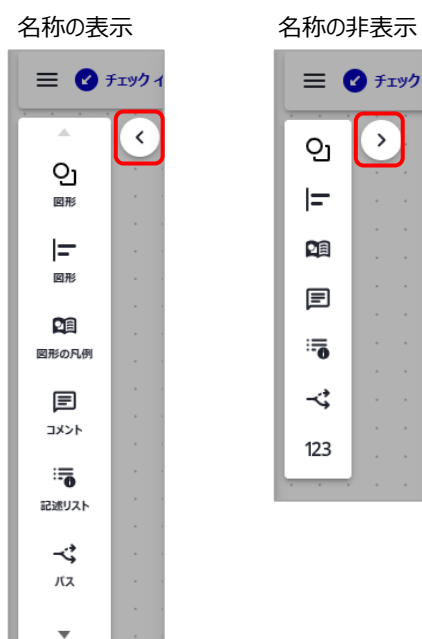
1) ツールボックス名の表示/非表示

各ツールの名称を表示/非表示に切り替えることができます。

- ① 「⋮」をクリックし、「サイドパネルをカスタマイズする」を選択します。
















- ② 「<」または「>」をクリックしてアイコンの名称を表示、非表示に切り替えます。



2) ツールボックスのアイコン

| アイコン | | 説明 |
|------|---------|--|
| | 図形ライブラリ | 図表に配置する図形の一覧を表示します |
| | 図形 | 図形の配置を調整します。 「揃え」、「配布」、「順番」、「サイズ」、「間隔調整」を選択します。 |
| | 図形の凡例 | 名前のついた図形を表示します。 |

| アイコン | | 説明 |
|---|-----------|---|
|  | コメント | コメントの表示、追加アイコンを表示します。 |
|  | 図形作成プロパティ | サブプロセスの種類、繰り返しの種類、ゲートウェイの種類など、選択した図形のプロパティを表示します。 |
|  | 記述リスト | 図形にリポジトリ内で定義されているオブジェクトの表示および登録をします。 |
|  | パス | 図形または接続線を選択し、作業の経路を登録します。 |
| 123 | 図形番号 | 図形番号を表示する、番号の付け直し、自動番号付けを行います。 ※アイコンを選択すると図形番号のダイアログボックスが開きます。 |
|  | ナラティブ | 図形のナラティブ情報を表示します。 |
|  | 図表の作成 | 図形の「タスクの種類」、「繰り返しの種類」を登録します。 |
|  | 記述対象 | 図形毎に「図形の概要」、「目的」、「説明」の項目を登録します。 |
|  | スタイル | ページの塗りつぶし、線のデザインを登録します。 |
|  | メモ | 図形にテキストでメモの表示および登録をします。 |
|  | リンク | 図形に URL もしくはリポジトリ内のオブジェクト、ファイルへのリンクを登録します。 |
|  | カスタムプロパティ | 設定されているカスタムプロパティの表示および登録をします。 |
|  | フィールドの表示 | 記述されているオブジェクトに関するデータを、図形の周辺に表示します。 |
|  | オートメーション | 図表内の要素を選択し、そのプロパティを表示します。 |

3) 図形ライブラリの管理

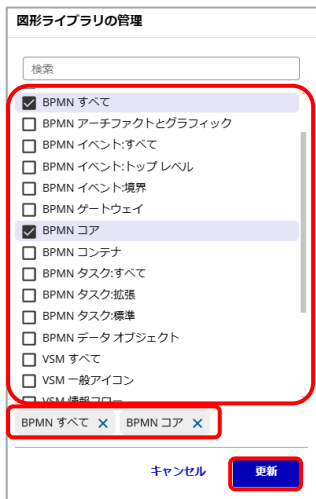
図形ライブラリには、さまざまな図表の種類に対応できるよう、図形が用意されています。

下記の手順で図形ライブラリのリストに表示させる図形を設定することができます。

- ① 「図形ライブラリ」アイコンを選択し、「管理」をクリックします。



- ② 「図形ライブラリの管理」ダイアログボックスより表示させたい図形ライブラリ名にチェックを入れ、「更新」ボタンをクリックします。
一度選択した図形ライブラリを表示させない場合は、チェックを外すまたは一覧下の図形ライブラリ名の「×」をクリックします。



- ③ 図形パレットウィンドウのリストより表示を切り替えます。



3.3 書式アイコン

書式アイコンは選択しているオブジェクト毎（図表/図形/接続線）に変更されます。

1) 図表の書式設定

図表を表示し、「スタイル」アイコンを選択し、詳細な書式設定ができます。

◆ ページの塗りつぶし

「ページの塗りつぶし」ボタンを選択し、図表の背景塗りつぶしを設定します。



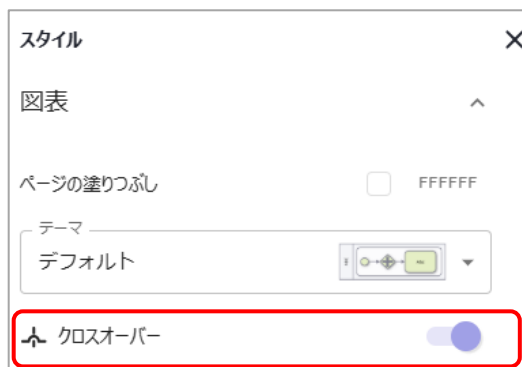
◆ テーマ変更

テーマを選択し、図形ライブラリのテーマを設定します。



◆ クロスオーバーの設定

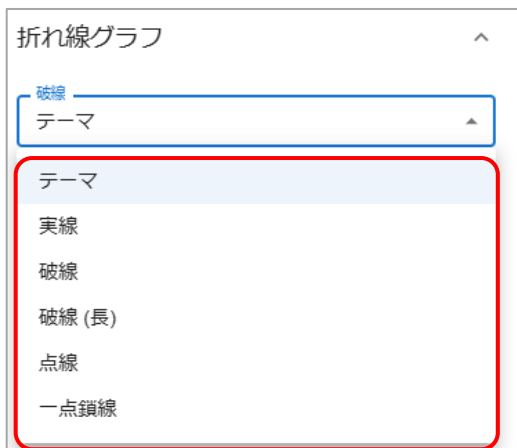
線の交差する箇所のクロスオーバー表示のオン、オフの切り替えをします。



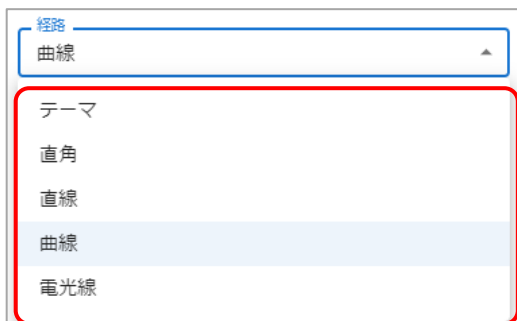
◆ 折れ線グラフの設定

線の書式を設定します。

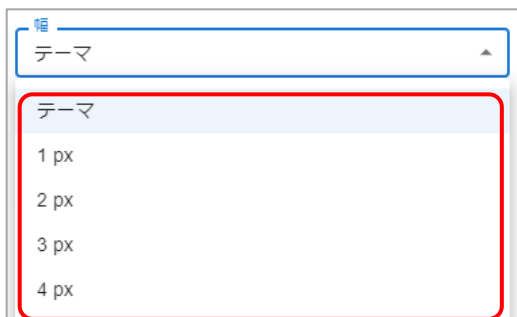
- 破線の設定



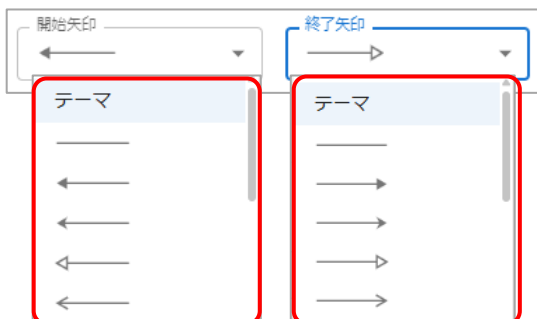
➤ 経路の設定



➤ 幅の設定



➤ 開始・終了矢印の設定



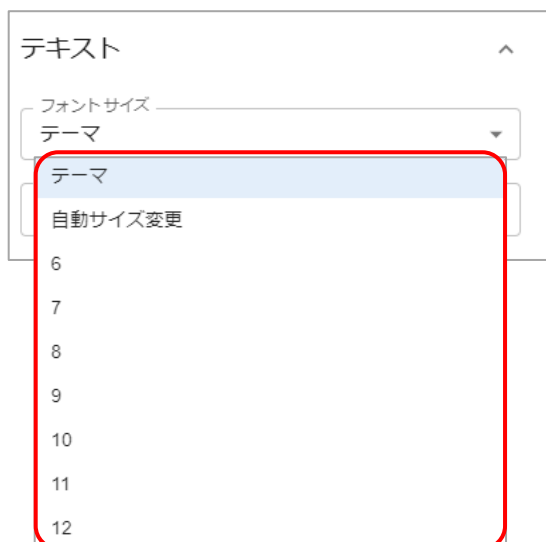
➤ 線の色の設定



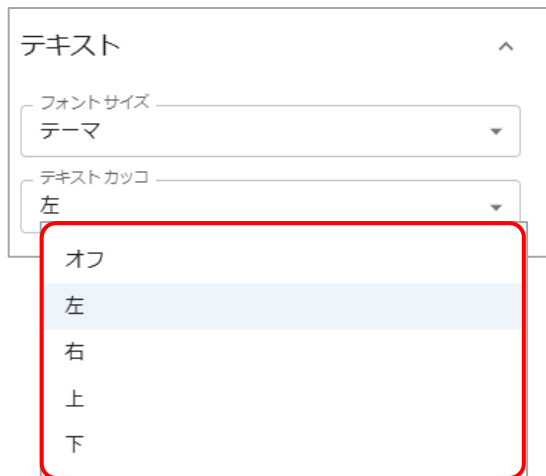
◆ テキストの設定

テキストの書式を設定します。

- フォントサイズの設定




➤ テキストカッコの設定

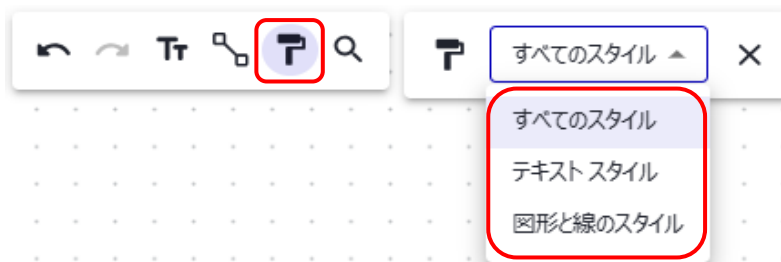



2) 図形の書式のコピー/貼り付け

図形を選択すると、図形の詳細な書式設定ができます。

 アイコンから、「書式のコピー/貼り付け」アイコンが追加表示します。

- ① 書式のコピーをする図形を選択し、「書式のコピー」アイコンを選択し、「すべてのスタイル」、「テキストスタイル」、「図形と線のスタイル」よりコピー対象を選択します。



- ② マウスポインタが  に変更されます。書式の張り付ける図形上クリックします。

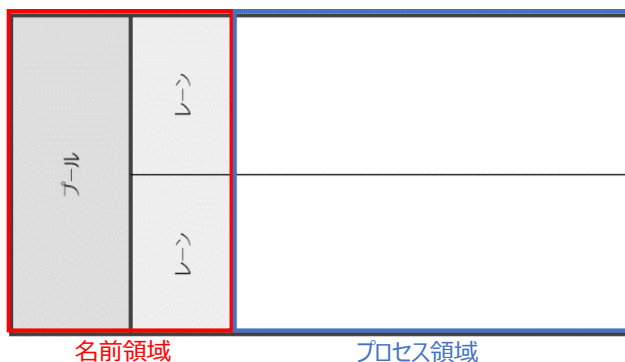
第2章 フローチャートを作成する

Web Diagram では、BPMN、一般、ジャーニーマップ、ナビゲーションなど、あらゆる用途の図表を作成することができます。

ここでは主に BPMN 業務フローチャートを作成する方法について説明します。一通りの学習を行うことにより Web Diagram の機能を効果的に利用し、迅速かつ効率的に業務フローチャートを作成できるようになります。

1. プールとレーン

プールは、プール名またはレーン名が表示される「名前領域」と図形を配置する「プロセス領域」で構成されています。



1.1 プールの作成

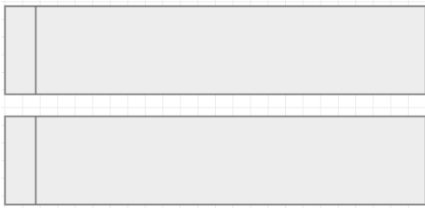
図形ライブラリの「プール」または「垂直プール」を選択し、図表上にドラッグします。



1) 同レベルのプール追加

複数プールを追加する場合は、新規プールの作成と同様に図形ライブラリの「プール」をドラッグして配置します。

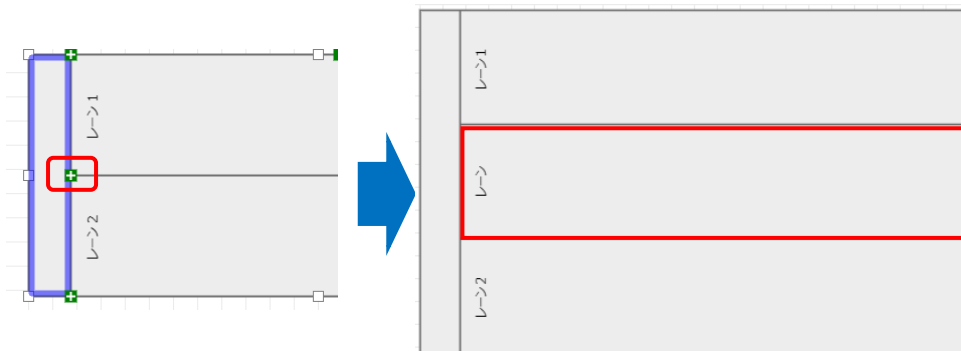
プールとプールの間にスペースを空けて配置します。iGrafx では、フローティングと呼び、最上位レベルで独立したプールを表現します。



2) 階層レベルのレーン追加

配置したプールに対して下階層の「レーン」を追加します。

- ① プールの名前の領域を選択し、緑の「+」をクリックします。「+」を選択する場所によって追加されるレーンの場所が異なります。



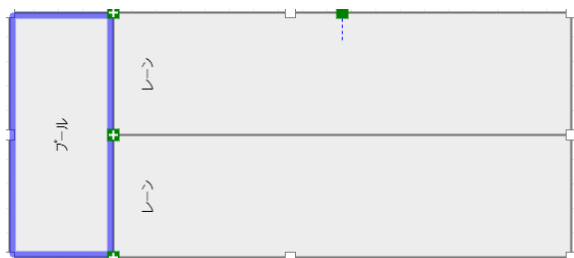
1.2 プール名称の変更

1) プール名の変更

プールの名前領域を選択し、直接修正します。

配置したプールを選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。入力した内容は、「Esc」キーまたは図表の空白部分をクリックするか、次の操作（プールまたはレーンを選択をするなど）を行って確定します。

入力した名称を編集したい場合は、選択した名前の領域をクリックし再度クリックまたは「F2」キーを押すと入力されているテキストを上書きせずに必要な箇所を編集することができます。



1.3 プールの移動

1) ドラッグによるプールまたはレーンの移動

プールまたはレーンは、図表内同じレベル範囲で移動することができます。

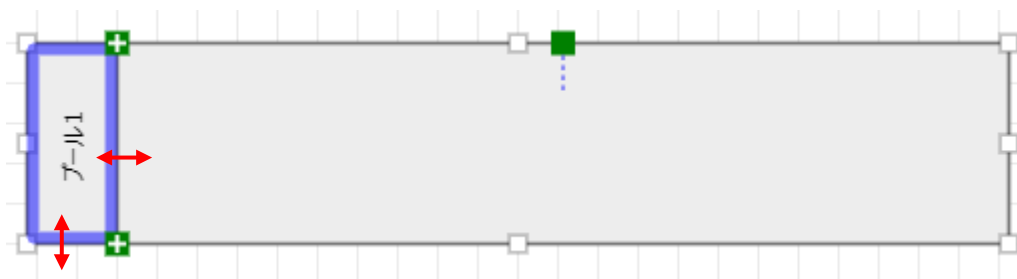
プールまたはレーンの名前領域を選択し、枠線上の選択部分を移動したい方向にドラッグします。プールを移動するとそのプールに配置された図形なども一緒に移動し、図形の関係は保たれます。



1.4 プールのサイズ変更

1) 手動で変更

プールまたはレーンの名前領域を選択し、枠線上でドラッグします。



2) 自動拡張機能による調整

プールまたはレーンのサイズは、配置した図形を必ず枠内に収めようとするため、配置した図形の位置により自動的に変更されます。

1.5 プールの削除

1) プールの削除

プールの名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。

プールを削除すると、プール内のオブジェクトはすべて図表から削除されます。

※「編集」メニュー－「切り取り」をクリック、または「Ctrl」+「X」キーで削除することもできます。

2) レーンの削除

階層構造になっているレーンを削除する場合も、レーンの名前領域を選択し、「Backspace」キーまたは「Delete」キーで削除できます。レーンを削除した場合は、レーン内のオブジェクトはすべて図表から削除されます。

2. 図形

図形はツールバーの「図形ライブラリ」に登録されている図形から選択します。

2.1 図形パレットの表示

「図形ライブラリ」のアイコンを選択して図形パレットを表示します。図形は、テンプレートに合わせて表示されます。表示する図形ライブラリを設定することができます。

2.2 図形ライブラリの表示

BPMN 図形ライブラリには 12 種類の図形ライブラリがあります。

図形ライブラリの「管理」を選択し、チェックを入れるとリストに表示する図形ライブラリに追加されます。



- ① 「図形」のアイコンをクリックし、図形パレットを表示します。



- ② BPMN 図表は図形ライブラリを切り換えることができます。



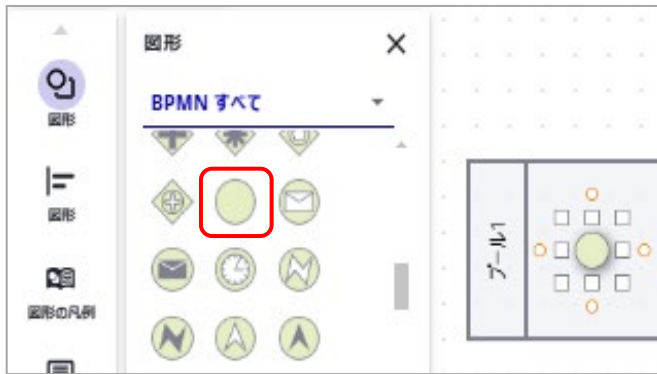
主要な BPMN 図形

2.3 図形の配置方法

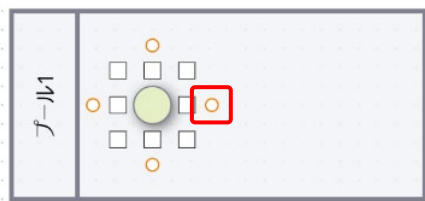
1) 基本の配置方法

図形と図形を接続線で繋ぎながら図形を配置し、スムーズにフローチャートを描画します。

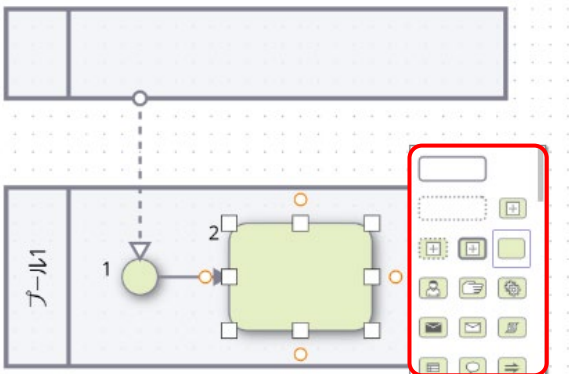
- ① 図形ライブラリの図形を選択してドラッグで配置します。



② 図形を配置した箇所の「○」をクリックします。



③ 接続線付きの図形が追加されます。図形選択ダイアログボックスより図形の種類を選択します。



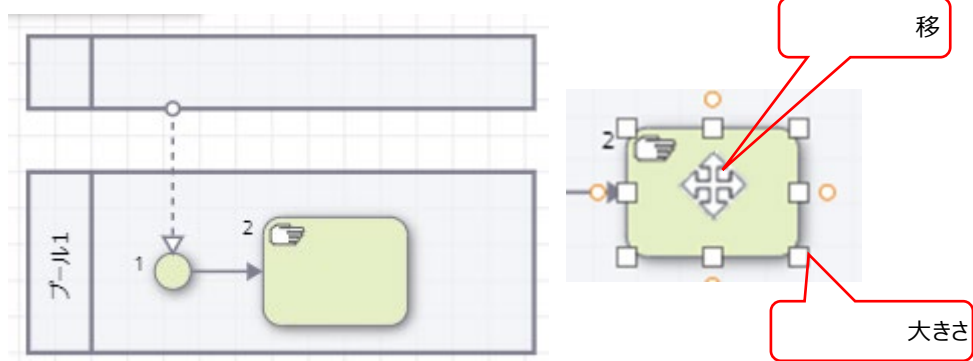
④ 同様に図形を配置し、図形ライブラリより配置する図形を選択します。

2.4 図形の移動

1) マウスで移動

選択枠のグレー部分にマウスポインタを合わせてドラッグすると図形を移動することができます。

ハンドルの黒い部分にマウスポインタを合わせてドラッグすると図形サイズが変更されます。



2) キーボードで移動

図形を選択し、キーボードの矢印キー「←」「↑」「→」「↓」を押し図形の配置位置を移動します。

2.5 オブジェクトの複数選択

オブジェクトは複数選択することができます。



オブジェクトを選択する場合は、マウスポインタ を選択モードにします。

1) ラッソー選択

- ① マウスポインタを選択する範囲の左上から右下に向かって斜めにドラッグし、選択したいオブジェクトを大きく囲みます。
- ② 完全に囲まれたオブジェクトだけが選択されます。

2) 任意選択

- ① 選択対象の最初の図形を選択します。
- ② 「Shift」または「Ctrl」キーを押したまま、順にオブジェクトをクリックします。

3) すべて選択

- ① 図表の上で右クリックし、「すべて選択」を選択します。

4) それぞれを選択

- ① プールまたはレーン、図形、接続線を右クリックし、「それぞれを選択」を選択します。
プールを右クリック：「プール」、「子」（子はレーンを指します。）
レーンを右クリック：「レーン」
イベント図形を右クリック：「一般イベント」、「イベント」
アクティビティ図形を選択：「ユーザータスク」、「タスク」、「アクティビティ」
線を選択：「折れ線グラフ」

2.6 メッセージグラフィック図形の配置

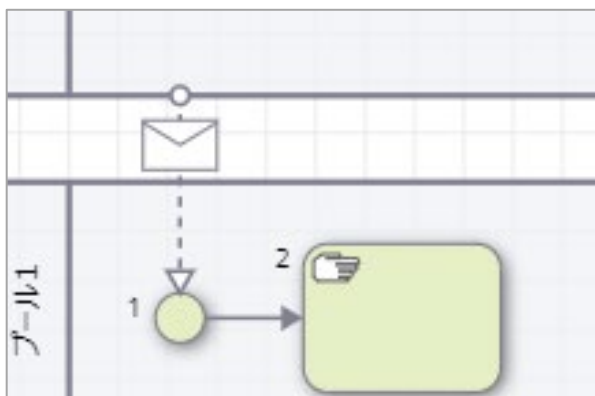
メッセージ図形には、開始メッセージと非開始メッセージ図形があります。配置方法は、図形の配置方法と同じです。メッセージフロー線に重ねて配置します。

1) メッセージフロー線に添付して配置

- ① 図形ライブラリよりグラフィック図形をドラッグします。

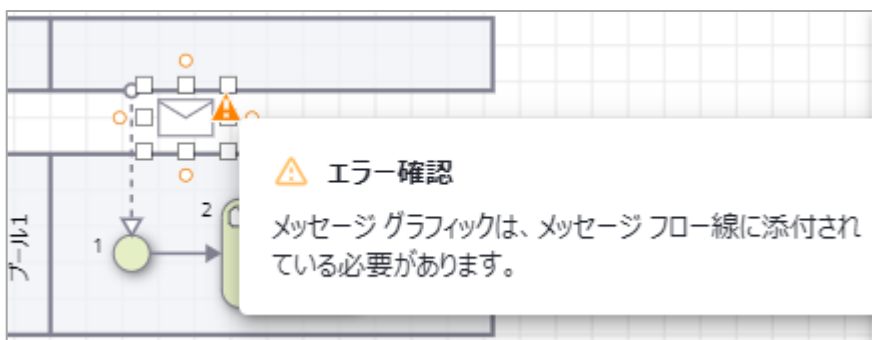


- ② メッセージフロー線の上にマウスポインタを移動し配置します。



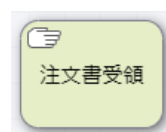
2) メッセージグラフィックの削除

誤った場所に配置した場合エラーメッセージが表示されますので、「Delete」キーで削除します。



2.7 図形テキストの入力

配置した図形を選択した状態で入力操作をすると、自動的に入力モードに切り替わりテキスト入力ができます。選択した図形の中を再度クリックまたは、「F2」キーを押すと部分修正ができます。入力した内容は図表の空白部分をクリックまたは次の操作（図形選択をするなど）を行なって確定させます。



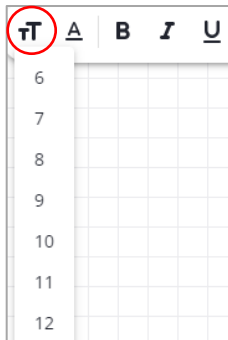
1) テキストの編集

図形を選択すると設定のアイコンが表示され、図形のテキストレイアウトを変更することができます。テキストレイアウトでは、テキストの余白、テキストの書式、を設定することができます。



◆ フォントサイズ

図形のテキストフォントのサイズを変更します。



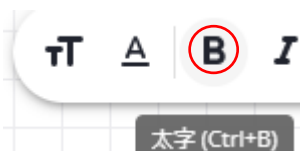
◆ 文字の色

図形のテキストフォントの色を変更します。



◆ 文字の太さ

図形のテキストの太さを設定します。



◆ 文字の斜体

図形のテキストの斜体を設定します。



◆ 文字の下線

図形のテキストの下線を設定します。



◆ 文字の箇条書き

図形のテキストの箇条書きを設定します。



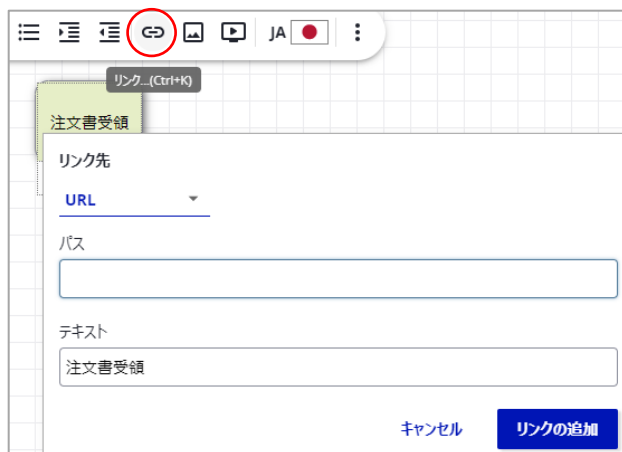
◆ 文字のインデントの大小

図形のテキストのインデントの大ききしたり、小さくしたりを設定します。



◆ リンク

図形のテキストにリンクを設定できます。



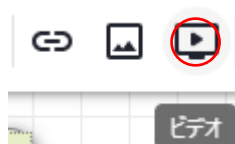
◆ イメージ

図形のテキストにイメージを追加することができます。



◆ ビデオ

図形のテキストにビデオを追加することができます。



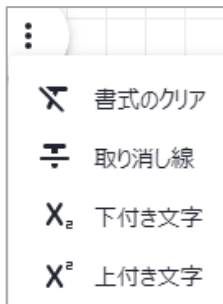
◆ 言語の切り替え

言語の切り替えができます。



◆ その他

その他、書式のクリア、取り消し線、下付き文字、上付き文字の設定ができます。



2.8 図形の追加

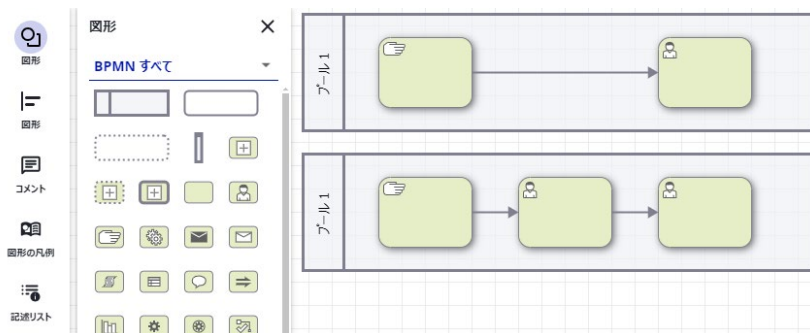
図形と図形の間図形を追加する場合、接続線の上に図形を配置すると自動的に接続線が接続されます。

図形を追加する時は、事前に図形を配置できるスペースを作ります。

1) 接続線の上に図形を配置

接続線で繋がった図形の中に新しい図形を追加します。

図形ライブラリより図形をドラッグして接続線の上に重ねるように移動し、配置します。



2) 追加するスペースを作って図形を配置

図形を追加するスペースがない場合は、周りの図形を移動してスペースを作る必要があります。「フェーズ」の機能を利用すると簡単にフローにスペースを作ることができます。※詳細は、P59 「第5章 1.2 フェーズ」をご覧ください。

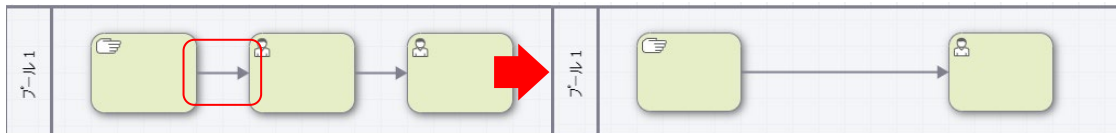
2.9 図形の削除

図形の削除は、削除対象とする図形を選択し「Delete」キーまたは「Backspace」キーを押します。

フローの間に位置する図形を削除した場合、削除図形の前後で自動的に接続線が接続、または削除されるケースがあります。

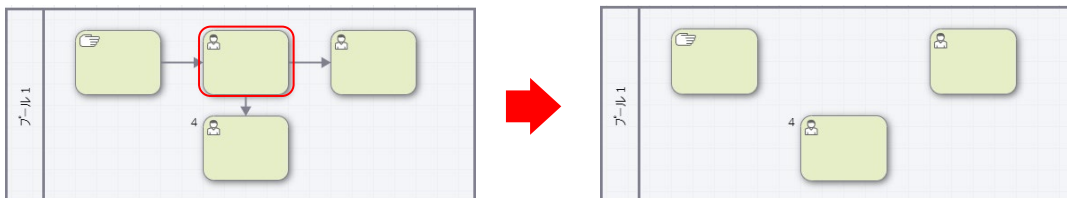
1) 1本の接続線を出力している図形を削除

1本の接続線を出力している図形を削除した場合、削除した前後の図形が自動的に接続されます。



2) 2本以上の接続線を出力している図形を削除

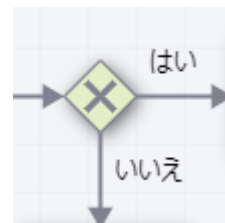
2本以上の接続線を出力している図形を削除した場合、その図形に接続されている接続線は図形と一緒に削除されます。



2.10 排他ゲートウェイ図形の利用

排他ゲートウェイ図形は、判断条件によって業務が2通り以上に分かれる場合に利用します。

排他ゲートウェイ図形を利用すると、接続線を出力した際に「はい」や「いいえ」のケーステキストがラベルとして自動的に表示されます。



1) 排他ゲートウェイ図形 ※「BPMN 図表」の場合

排他ゲートウェイ図形とは、判断動作を持つ図形から接続線を出力した場合にラベルが表示される図形です。図形ライブラリに登録されている排他ゲートウェイ図形には、あらかじめラベルを表示する設定がされています。ケーステキストは必要に応じて変更します。

- ① 排他ゲートウェイ図形を選択し、「図表作成プロパティ」アイコンを選択します。

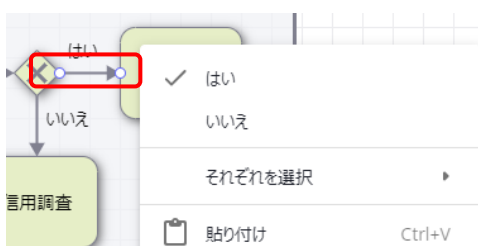


- ② 「出力」のテキストを変更します。「出力の追加」よりラベルを追加することができます。



2) ケーステキストの入れ替え

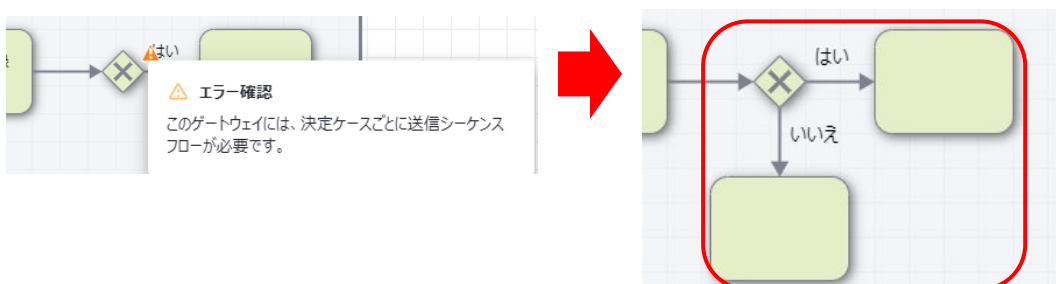
ケーステキストを入れ替えたい場合は、ラベルの上または接続線の上で右クリックし、コンテキストメニューよりラベルを選択することによって簡単に入れ替えることができます。



3) エラーケース

プロセス図表または BPMN 図表をご利用の場合、定義された判断条件を満たしていない場合は、判断図形に警告マークが表示されます。また警告マークをクリックすると警告の内容が表示されます。

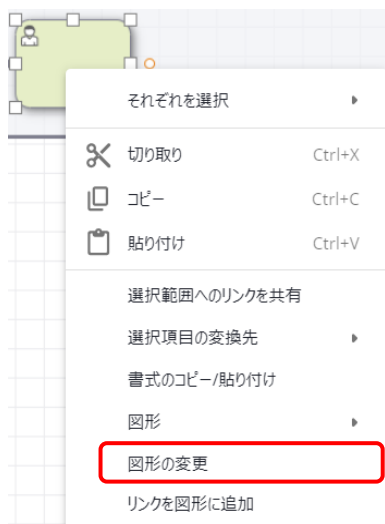
ケーステキストに「Yes」と「No」と定義しているにも関わらず、判断を「Yes」とした場合の先の図形（アクティビティ）がないためです。定義した判断条件を満たしたフローになっているかご確認ください。



2.11 図形の置換

配置した図形を図形ライブラリに登録されている別の図形に置き換えることができます。

- ① 図表に配置している図形を選択し、「図形の変更」をクリックします。



- ② 図形ライブラリより置換したい図形を選択します。

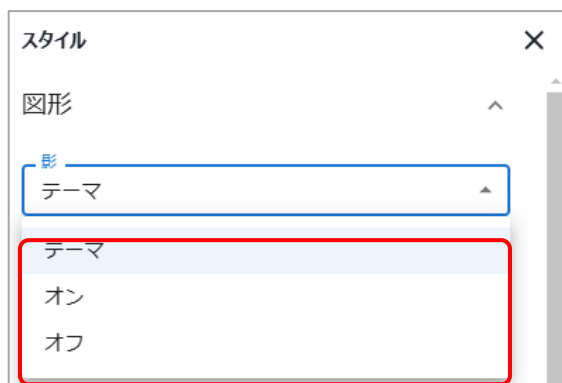


2.12 図形の書式

図形を選択し、「スタイル」のアイコンから図形の書式を設定することができます。

◆ 影の設定

影を選択すると図形の影の設定ができます。



◆ 塗りつぶしの種類

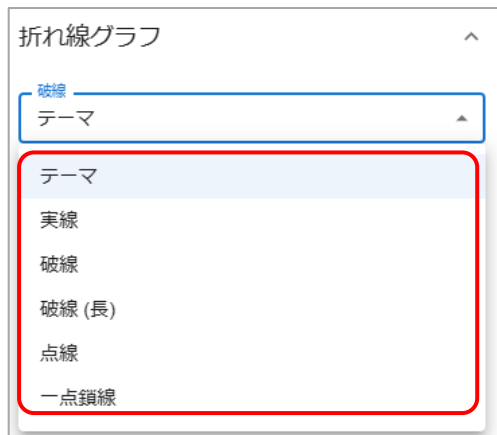
塗りつぶしを選択すると図形の塗りつぶしの設定ができます。



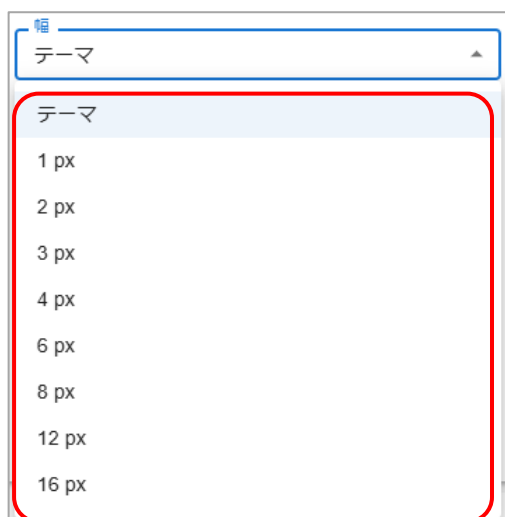
◆ 折れ線グラフの設定

線の設定がそれぞれできます。

➤ 破線の設定



➤ 幅の設定



➤ 線の色



◆ テキストの設定

テキストの設定がそれぞれできます。

➤ 方向の設定



➤ 揃え



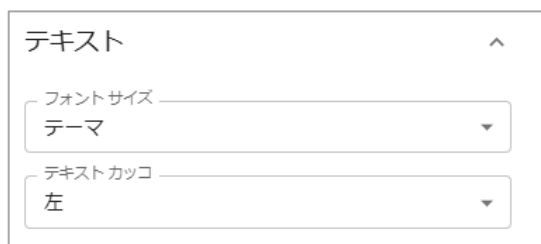
➤ 垂直方向の揃え



➤ 文字の色



➤ フォントサイズの設定



3. 接続線

接続線は、2つの図形を接続するもので、プロセスにおける仕事の流れを表します。それぞれの図形には、各辺の中心に4つの接続点があります。ただし、接続線は接続点以外の場所からでも引くことができます。

接続線は自動的に配置され、図形を移動した場合でも自動的に再描画されます。

3.1 図形の接続

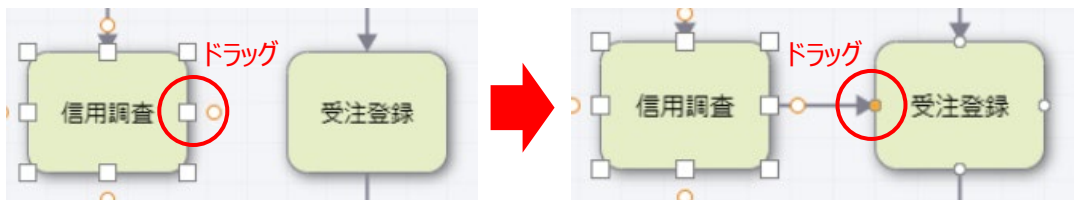
メニューバーの「線の追加」アイコンをクリックして接続線追加モードにします。



1) 図形と図形の接続

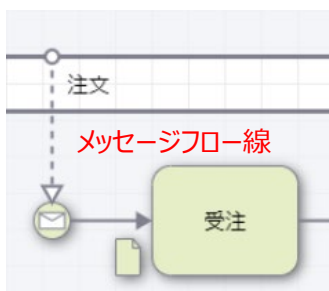
2つの図形を接続線で結びます。マウスポインタが「選択」モードになっていることを確認します。

- ① 「線の追加」アイコンをクリックします。
- ② 接続線を引き始める図形の外枠の任意の場所にカーソルを合わせます。
- ③ 接続先の図形の外枠の任意の場所までドラッグします。
- ④ マウスの左ボタンを離すと、図形間に接続線が描かれます。
- ⑤ 「線の追加」アイコンをクリックして、線の追加を解除します。



2) プール間の接続線

BPMN 図表では、プール間の接続線は自動的にメッセージフロー線になります。



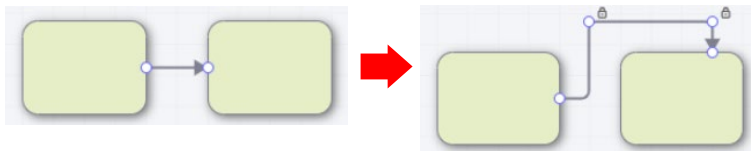
3.2 接続線の編集

図形間を接続している接続線を編集します。

1) 接続点の移動

図形間を接続している線の接合点を移動することができます。

- ① 接続線を選択します。
- ② 接続の線の接合点（白い点）をクリックし、新しい接続点にドラッグします。



2) 接続線の一括選択

接続線上で右クリックして、「それぞれの選択」>「折れ線グラフ」を選択します。

3) 線の経路の変更

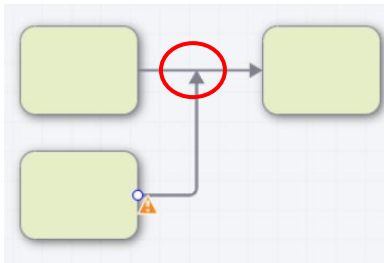
接続線を選択し、「線の経路」より「直角」「直線」「曲線」「電光線」に変更することができます。

4) 接続線の接続

通常、接続線は図形と図形を繋ぐために引きますが、作図上、図形に繋がらない線や、線に接続した線を引くことができます。

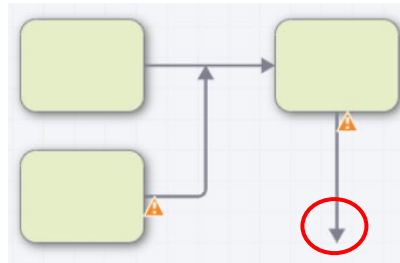
【線が他の線に接続する】

接続線に接続線を接続することができます。



【接続しない線】

図形に接続していない線を描くことができます。



第3章 フローチャートを整える

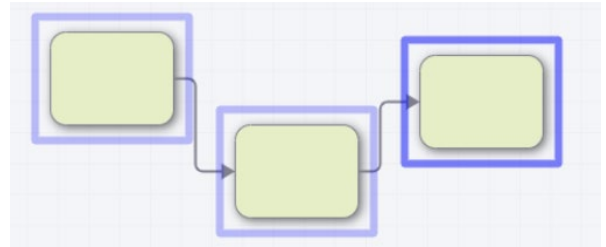
図形をきれいに整列させる機能や、図形の間隔を等しくする機能などについて説明します。

1. 配置・整列

図形は、基準図形に合わせて整形されます。「Shift」キーを押しながら整形したい対象の図形を選択した場合、最後に選択した図形の枠が濃く表示されます。これが基準図形です。基準としたい図形に白いハンドルが表示されていない場合は、「Shift」キーを押しながら一旦選択を解除し、再度選択しなおしてください。

1.1 図形の揃え

図形の配置を揃えます。



- ① 揃えたい図形を複数選択します。
- ② 基準図形が濃い枠線に表示されていることを確認します。
- ③ 「図形」アイコンを選択し、「揃え」より条件に合わせて選択します。

| | 項目 | 説明 |
|---|---------|------------------------------------|
| ≡ | 右揃え | 基準図形の右のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |
| ≡ | 中央揃え（横） | 基準図形の中央ラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |
| ≡ | 左揃え | 基準図形の左のラインに揃えます。縦に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |
| ≡ | 下揃え | 基準図形の下ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |
| ≡ | 中央揃え（縦） | 基準図形の中央ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |
| ≡ | 上揃え | 基準図形の上ラインに揃えます。横に並んだ図形を揃えるのに有効です。 |

1.2 図形の均等配置

図形を等間隔に配置します。

- ① 均等配置する図形を全て選択します。
- ② 「図形」アイコンを選択し、「配布」より条件に合わせて選択します。

| | 項目 | 説明 |
|--|----------|---------------------|
| | 縦方向に均等配置 | 選択した図形を縦方向に均等配置します。 |
| | 横方向に均等配置 | 選択した図形を横方向に均等配置します。 |

1.3 図形の重なる順番

図形の重なる順番を指定します。

- ① 1個以上の図形を選択します。
- ② 「図形」アイコンを選択し、「順番」より条件に合わせて選択します。

| | 項目 | 説明 |
|--|-------|------------------------|
| | 後方に移動 | 図形は重なった図形の中で1つ下に移動します。 |
| | 前方に移動 | 図形は重なった図形の中で1つ上へ移動します。 |
| | 背面に移動 | 図形は重なった図形の一番下へ移動します。 |
| | 前面に移動 | 図形は重なった図形の一番上へ移動します。 |

1.4 図形のサイズ揃え

図形のサイズを同一にします。

- ① 同一サイズにする図形を全て選択します。
- ② 「図形」アイコンを選択し、「サイズ」より条件に合わせて選択します。

| | 項目 | 説明 |
|--|----------|------------------------------|
| | 同じ幅 | 選択したすべての図形を基準図形と同じ幅にします。 |
| | 同じ高さ | 選択したすべての図形を基準図形と同じ高さにします。 |
| | 同一サイズにする | 選択したすべての図形の幅と高さを基準図形と等しくします。 |

2. 図形番号

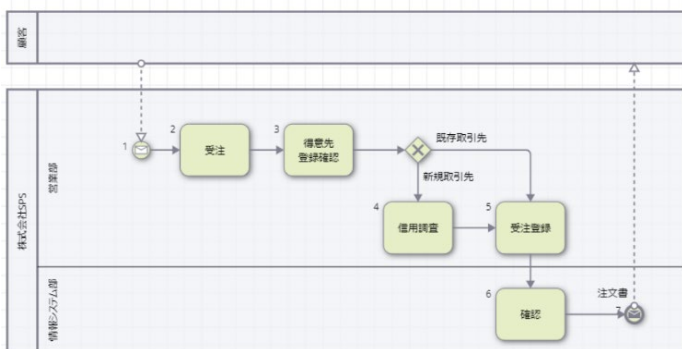
すべての図形は、図形を特定する図形番号を持ちます。削除した図形が持つ図形番号は欠番となりますが、図形番号の付け直し機能で採番しなおすことができます。

2.1 図形番号の表示方法

1) 図形番号の表示

初期設定では、図形番号が表示されていません。

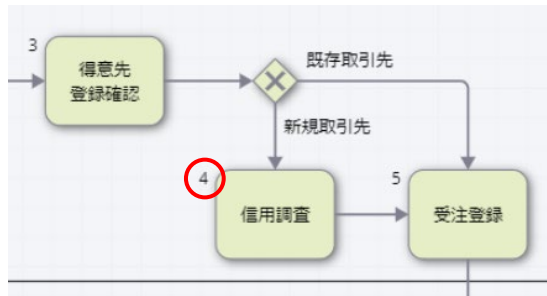
図形番号のアイコンをクリックし、「図形番号を表示する」の「すべて」または「選択」をオンすると左上に図形番号が表示されます。



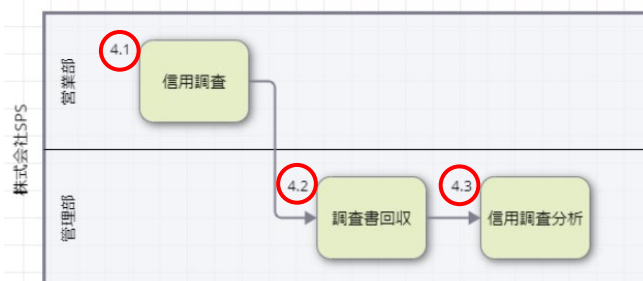
◆ 階層図表の図形番号

階層関係にある業務フローチャートはリンクされています。このような関係の場合、サブプロセスの図形番号はリンク元である親図形の図形番号を頭につけて表示されます。

【リンク元】



【リンク先】



2.2 図形番号の付け直し

図形番号を指定した開始番号から順に並べ替えることができます。

1) 自動番号付け直し

図形の番号を自動的に付け直します。

- ① 「図形番号」のアイコンをクリックし、「図形番号」ダイアログボックスの「図形番号を表示する」の「すべて」または「選択」をオンにします。
- ② 「自動番号付け直し」のリストを選択し、
- ③ 番号の付け直しの対象の「すべて」または「選択」を選択し、「開始番号」を入力して「すべて再番号付け」ボタンをクリックします。



2) 手動番号付け直し

任意の図形に意図した番号を付けます。

- ① 「番号」のアイコンを選択し、「図形番号」ダイアログボックスの「図形番号を表示する」の「すべて」または「選択」をオンにします。



- ② 「番号付け直し」の「開始」ボタンをクリックします。



- ③ 「番号の付け直し」ダイアログボックスに番号を入力し、その番号を付与する図形をクリックします。



- ④ 番号を付与し終わったら「完了」ボタンをクリックします。

番号 ×

図形番号を表示する ^

すべて

選択

番号の付け直し 完了

i 図表内で再番号付けする図形をクリックする

完了

第4章 画面を操作する

1. ウィンドウ操作

1.1 画面表示の拡大と縮小

図表画面の表示は拡大／縮小することができます。表示のパーセント値を変更しても、印刷される図表のサイズは変わりません。

1) 表示倍率の変更

「ズームコントロール」より、表示倍率を変更することができます。



◆ 倍率を指定

表示倍率は任意に設定できます。

「ズームコントロール」の「-」または「+」を選択するか、任意の値を入力して「Enter」キーを押します。



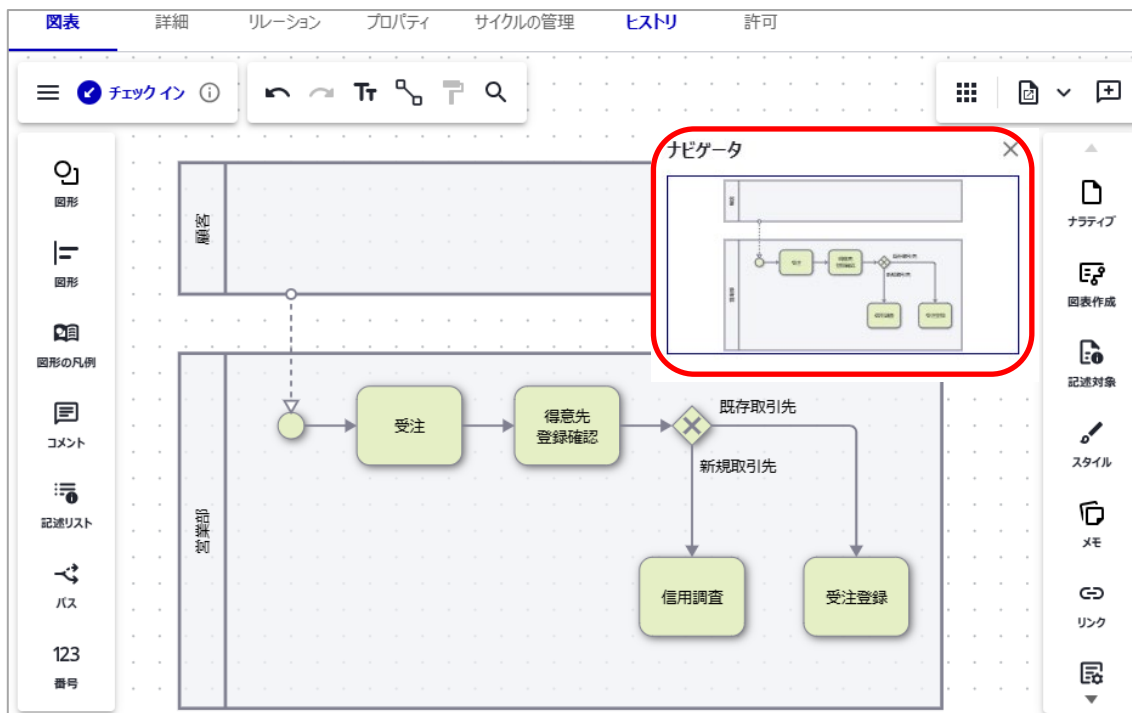
◆ 全画面表示

「全画面を表示する」を選択すると、図表を画面全体に表示します。再度「全画面を表示する」をクリックすると解除されます。

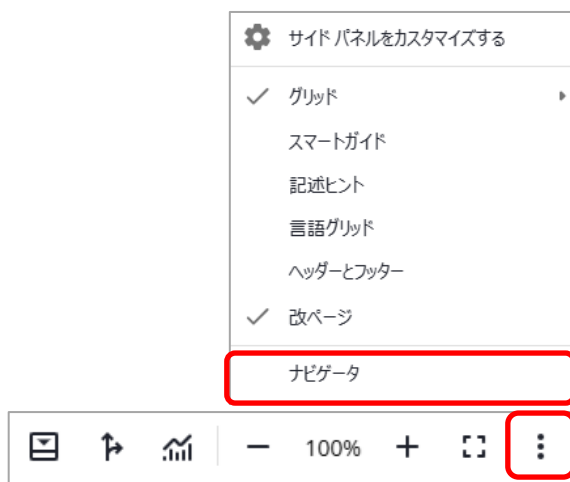


2) ナビゲータ

ナビゲータは、ナビゲータウィンドウの表示ビュー（選択の枠）で指定した部分を表示します。



- ① 「その他のオプション」を選択し、「ナビゲータ」を選択します。
画面にナビゲータウィンドウが表示されます。



第5章 フローチャートを活用する

1. さまざまな表記機能

業務フローチャートを組織で管理するのに、より充実した便利な機能を説明します。

1.1 グリッド

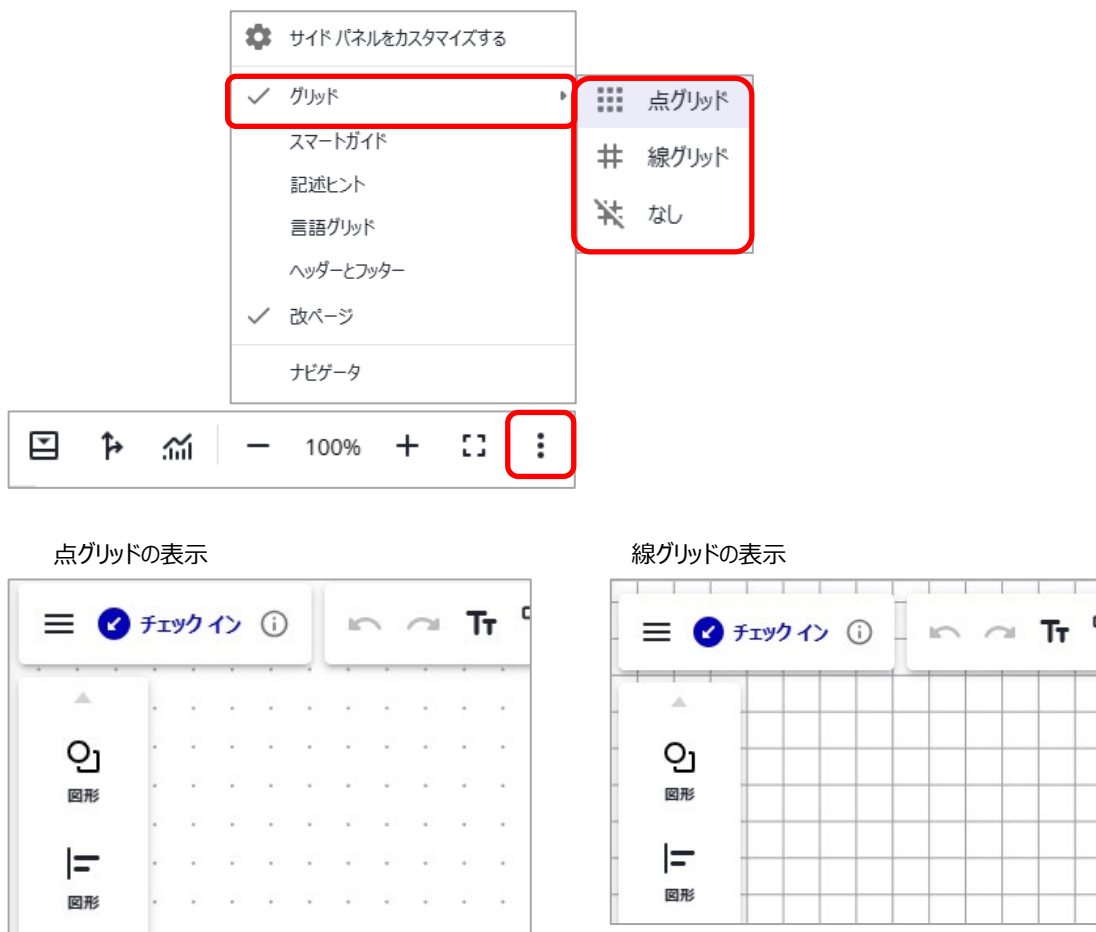
グリッドとは図表上に一定の間隔において格子状に配置されたドットのことです。

1) グリッドの表示

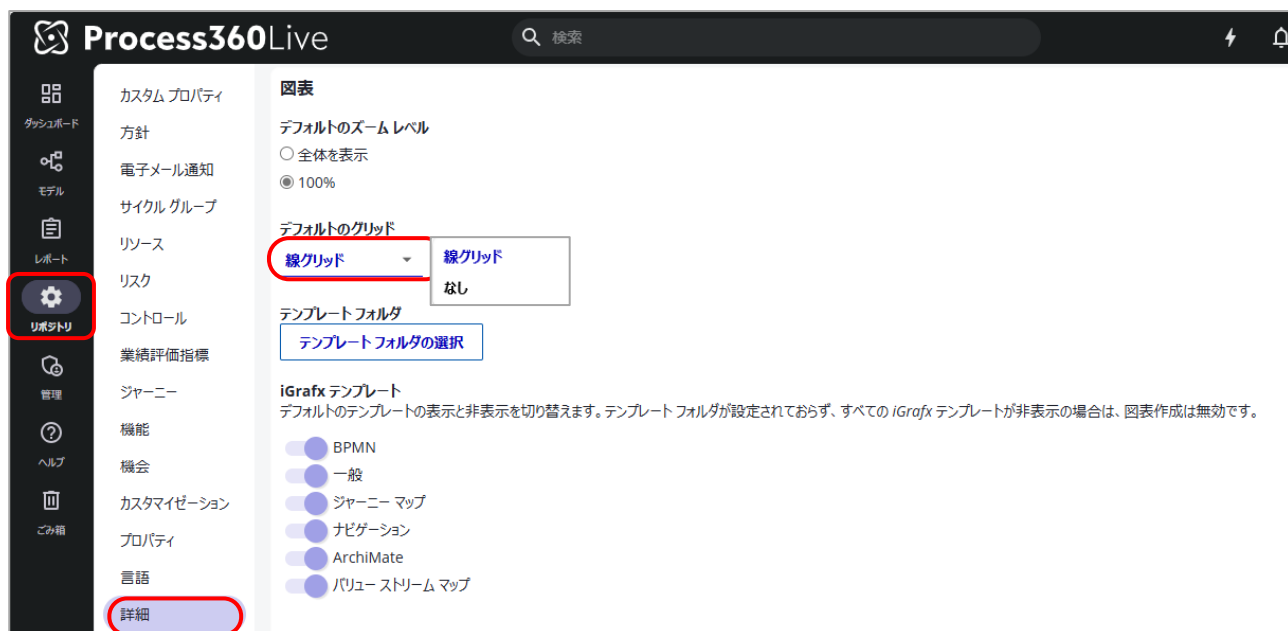
グリッドドットは初期設定で非表示です。グリッドドットを表示すると、図形を整列しながら配置する目安として利用できます。

◆ 表示・非表示の切替え

「その他のオプション」を選択し、「グリッド」より「点グリッド」、「線グリッド」、「なし」を切り替えます。



図表の「デフォルトのグリッド」設定は、「リポジトリ設定」-「詳細」の「図表」より「線グリッド」、「なし」を設定します。

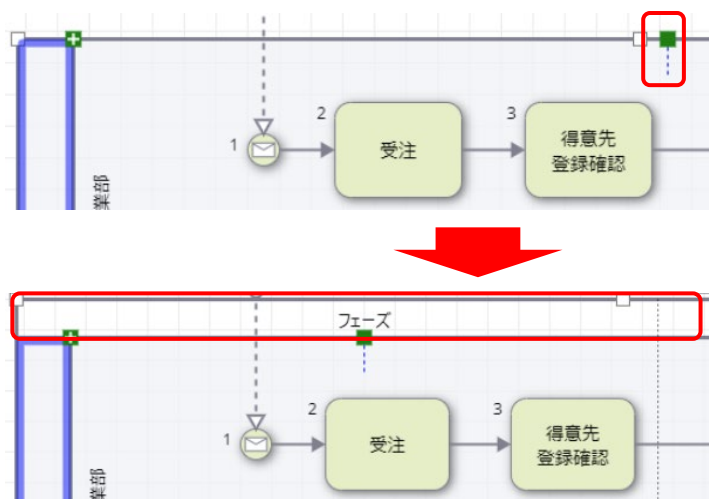


1.2 フェーズ

プールまたはレーンを利用している時に限り、プールの区切りと垂直に交わる線をフェーズとして引くことができます。プロセスの段階や区分を表すのに便利です。フェーズの挿入と削除については、業務フローに影響を与えるものではありません。

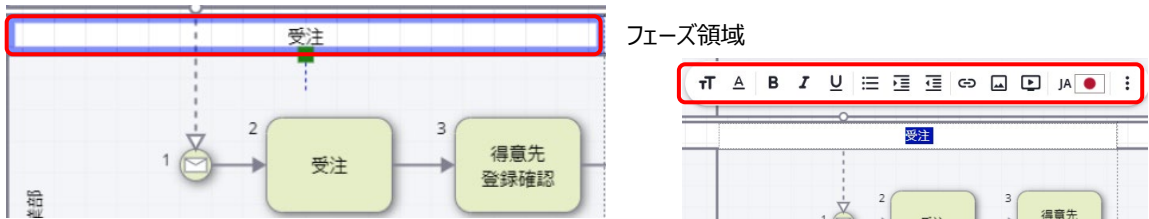
1) フェーズの挿入

- ① プール名の領域を選択し、緑のアイコンをクリックします。挿入する位置にドラッグで移動します。



② 「フェーズ」領域をクリックして「フェーズ名」を変更します。

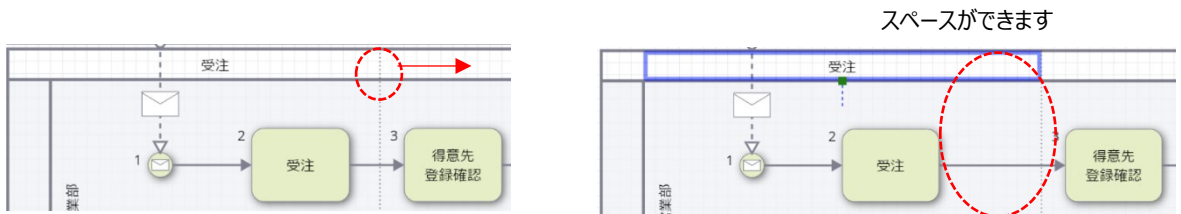
※フェーズ領域を再度クリックすると書式のアイコンが表示されます。



③ 複数のフェーズを挿入したい場合には、上記の操作を繰り返します。

2) フェーズの活用

フェーズの領域のハンドルをドラッグすると幅や高さを調整できます。この機能を活用すると業務を追加するスペースを簡単に作成することができます。

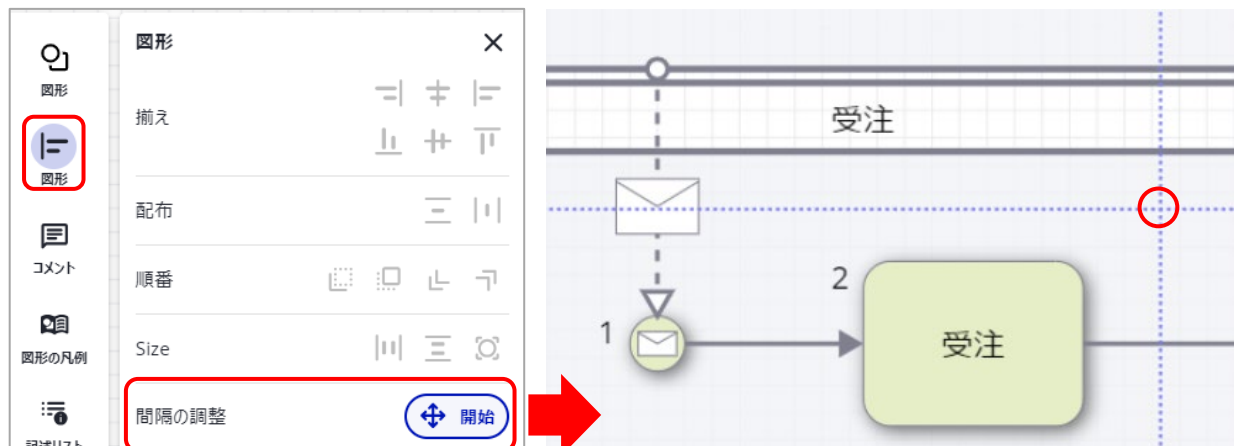


3) フェーズの削除

フェーズ領域を選択して「Delete」キーをクリックします。

4) スペース調整ツール

「図形」メニュー>「スペースの調整ツール」または「Ctrl+M」を選択するとマウスポインタがスペーサーモードに変化します。任意の場所でドラッグし、図形と図形の間隔を調整します。この機能を活用すると業務を追加するスペースを簡単に作成することができます。

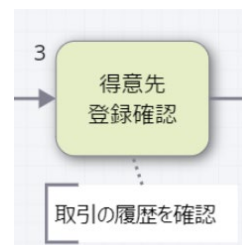


1.3 テキスト

図表にテキストを追加して、補足情報を付けることができます。

1) テキスト入力

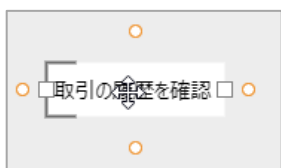
- ① 「テキストの追加」アイコンをクリックし、マウスポインタを移動します。マウスポインタが「I」の形になります。
- ② 図表の任意の場所でクリックし、テキスト枠にテキストを入力すると、入力した文字に合わせてテキストボックスが自動的に拡張されます。
- ③ テキストを入力後、図表の空白部分をクリックするか、「ツールボックス」ツールバーの「選択」ツールをクリックして、テキストツール選択を解除します。



2) テキストブロックの移動

テキストブロックは、配置した位置に固定されます。

テキストブロックの位置は、テキストブロックを選択しドラッグすると移動することができます。



3) テキストブロックの書式変更

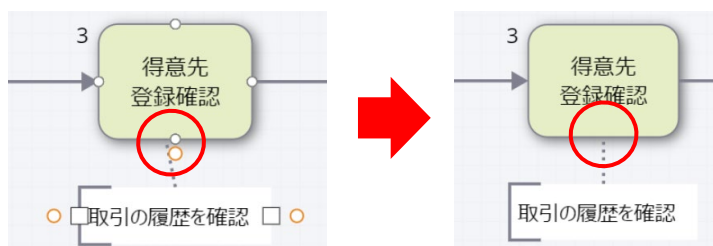
テキストブロックの書式は、図形テキストの書式と同じ方法で設定できます。



4) テキストを図形や接続線に紐付ける

テキストブロックは、図形や接続線に紐付けることができます。

- ① テキストブロックを選択します。○のハンドルが表示されます。
- ② ○ハンドルにマウスポインタを合わせクリックまたは添付したい図形や線までドラッグします。

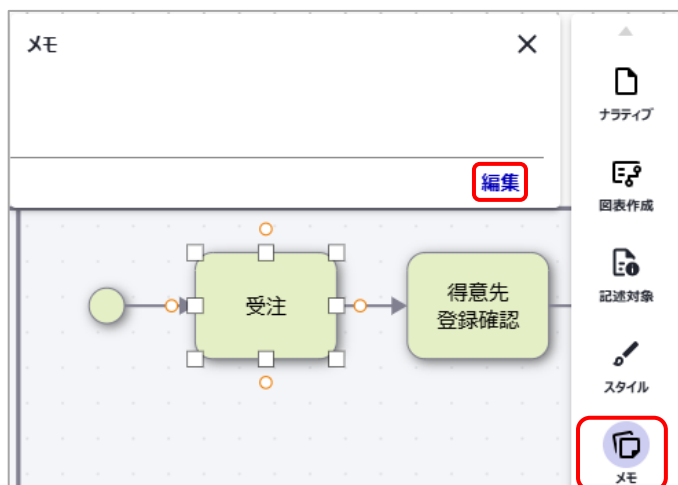


1.4 メモ

図形にメモを登録することができます。

1) メモの追加と削除

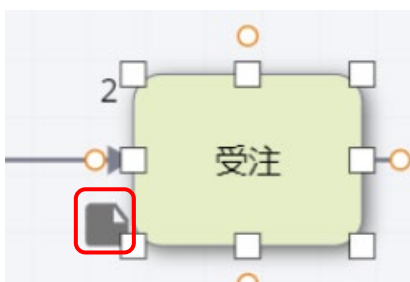
- ① メモを追加した図形を選択し、「メモ」のアイコンをクリックします。



- ② 「編集」をクリックし、表示されたダイアログボックスにメモを入力し「保存」ボタンをクリックします。



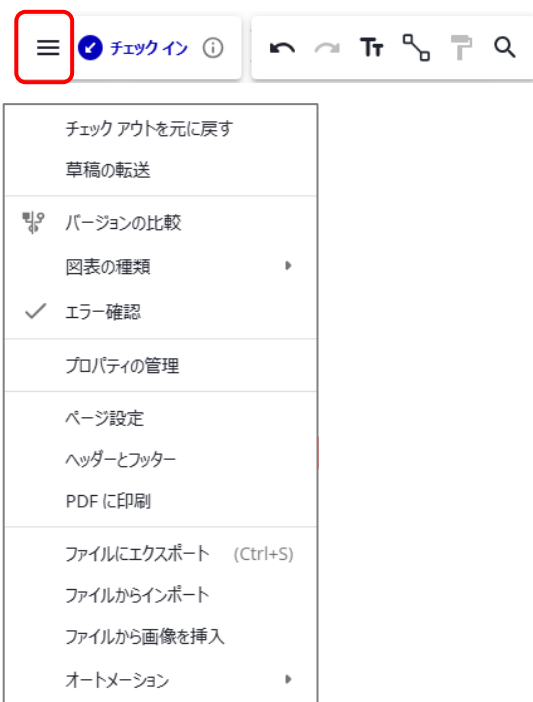
- ③ メモを入力すると図の左側にメモインジケータが表示されます。インジケータをクリックするとメモダイアログボックスが表示されます。



④ メモ内容を削除すると「メモ」アイコンは表示されません。

2) メモの印刷

- ① メインメニューを選択し、「ページ設定」を選択します。



- ② 「メモの印刷」にチェックを入れます。

業務フローを印刷すると、業務フローの後に、図形に登録しているメモ内容が印刷されます。



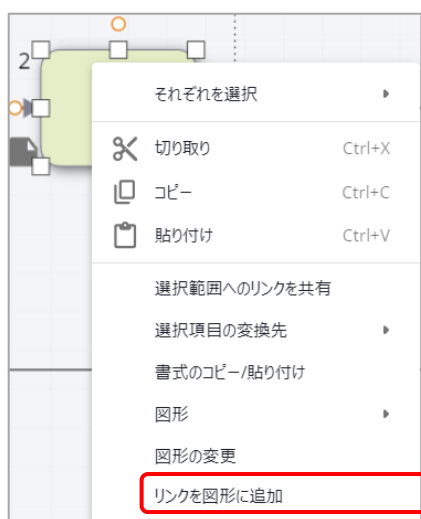
1.5 リンク

図形に関連する文書をリンク設定することで、リンク先の文書を直接参照することができます。リンクは1つの図形に複数設定できます。リンク先文書は、リンクインジケータをダブルクリックまたはクリックしてリンク先を選択することによって、簡単に開くことができます。

1) リンク設定共通操作

リンクの設定方法は、リンク先ファイルによって異なります。ここでは共通の操作を説明します。

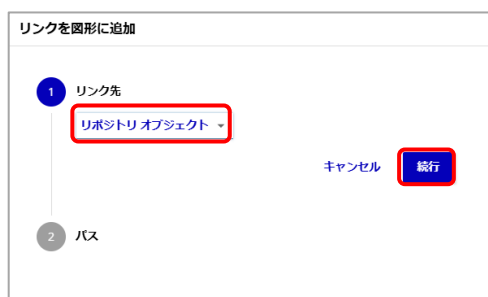
- ① 図形を選択し、「リンク」アイコンまたは図形の上で右クリックし、コンテキストメニューより「リンクを図形に追加」を選択します。



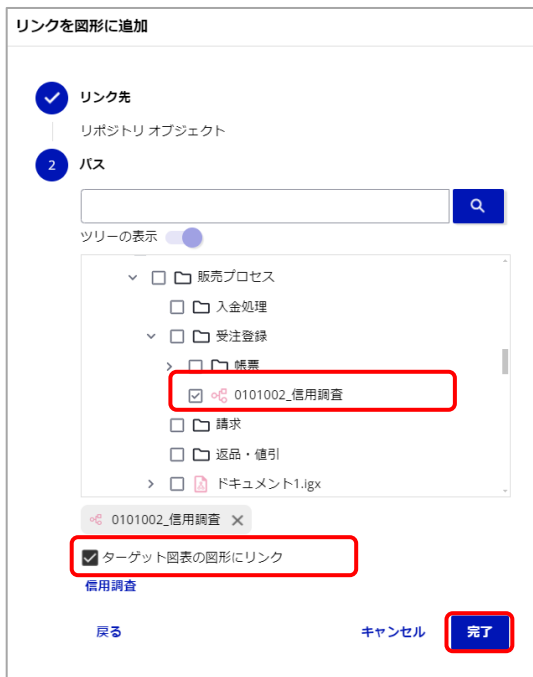
2) Web Diagram 図表間のリンク

Web Diagram 図表にリンクします。

- ① 図形を選択し、
- ② 「リンクを図形に追加」ダイアログボックスのリンク先に「リポジトリオブジェクト」を選択し、「続行」ボタンをクリックします。



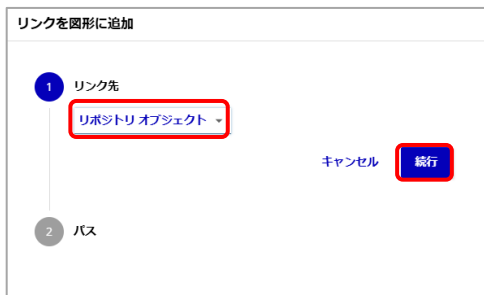
- ③ パスの「ツリーの表示」をオンにし、リンク先の図表を選択します。特定の図形にリンクを設定したい場合は、「ターゲット図表の図形にリンク」にチェックを入れ、該当の図形名称を選択し、「完了ボタンをクリックします。
-



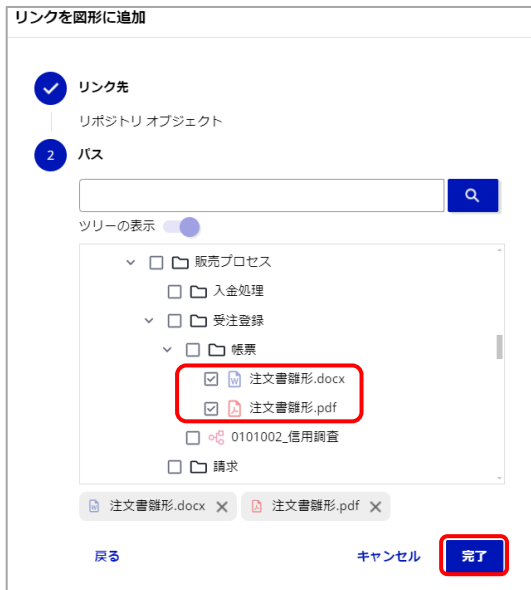
3) 別ファイルのリンク

Web Diagram で作成した図表にリンクします。

- ① 「リンクを図形に追加」ダイアログボックスのリンク先に「リポジトリオブジェクト」を選択し、「続行」ボタンをクリックします。



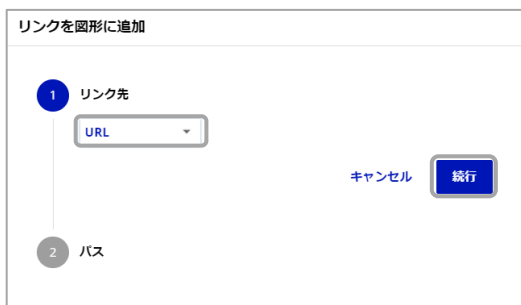
- ② パスの「ツリーの表示」をオンにし、ファイルを選択して「完了ボタンをクリックします。



4) Web ページのリンク

Web ページにリンクします。

- ① 「リンクを図形に追加」ダイアログボックスのリンク先に「URL」を選択し、「続行」ボタンをクリックします。



- ② パスの「URL」にリンクするファイルのパスを入力し、「完了」ボタンをクリックします。



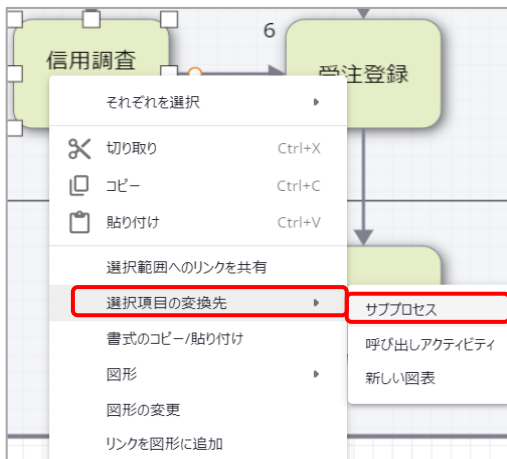
1.6 サブ図表の追加

サブ図表を追加することができます。

追加する図表は、「サブプロセス」「呼び出しアクティビティ」「新しい図表」より選択します。新しく図表が追加されリンクが張られます。

1) サブプロセスの追加

- ① サブ図表を追加したい図形を選択し、「編集」メニュー>「選択項目の変換先」または右クリックし、コンテキストメニューより「選択項目の変換先」-「サブプロセス」を選択します。



- ② アクティビティ図形が自動で作成され、選択した図形は新しい図表に移動し、リンク接続した別図表を作成します。



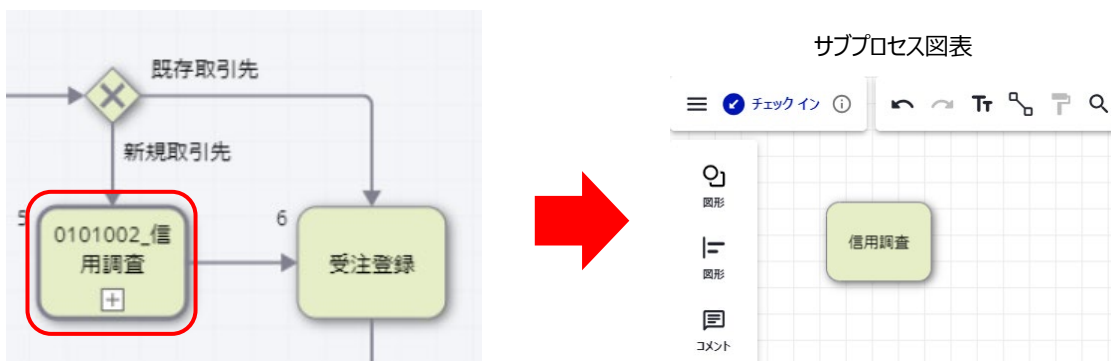
2) 呼び出しアクティビティの追加

- ① 「呼び出しアクティビティ」を選択します。



- ② 「呼び出しアクティビティに変換」ダイアログボックスが表示されます。「位置」と「名前」を入力し「完了」ボタンをクリックします。

- ③ 呼び出しアクティビティ図形が自動で作成され、選択した図形は新しい図表に移動し、リンク接続した別図表を作成します。呼び出しアクティビティ図形には、サブ図表のファイル名が表示されます。



3) 新しい図表の追加

- ① 「新しい図表」を選択します。

③ 選択した図形は削除され、新しい図表が開き図形が移動し配置されます。



第6章 フローチャートを公開する

作成したフローチャートを公開する前の準備と、公開の手段について説明します。

1. 印刷

1.1 ページ設定

ページ設定は図表ごとに設定します。

1) ページ設定

「ファイル」メニュー>「ページ設定」を選択します。



| 項目 | 説明 |
|----------|---|
| ページサイズ | 用紙のサイズを指定します。 |
| 方向 | 縦：垂直方向に印刷します。 横：水平方向に印刷します。 |
| ページネーション | ブックモード：ブックモード - 本として綴じることができるように、複数ページ図表を個別に印刷します。出力した図表をファイルに綴じるときに利用します。 ポスターモード：大きな複数ページからなる図表を印刷します。 出力した後、複数枚のばらばらなプロセス図を貼りあわせて1枚の大きな印刷物にまとめたときに利用します。 |

| | |
|-------|--|
| エキストラ | コメントの印刷 : コメントに記述内容を業務フローの次に印刷します。 メモの印刷 : メモに記述内容を業務フロー (コメント) の次に印刷します。 図形の凡例の印刷 : 図形の凡例を業務フロー (コメント・メモ) の次に印刷します。 |
|-------|--|

2) ヘッダー・フッター

- ① 「ファイル」メニュー->「ヘッダーとフッター」を選択し、ヘッダーまたはフッターの「挿入」をクリックして表示する項目を設定します。



1.2 PDF に印刷

Web Diagram の「PDF に印刷」は、Windows 標準の印刷ユーティリティとドライバを使用します。

1) PDF 印刷

PDF 形式に表示します。

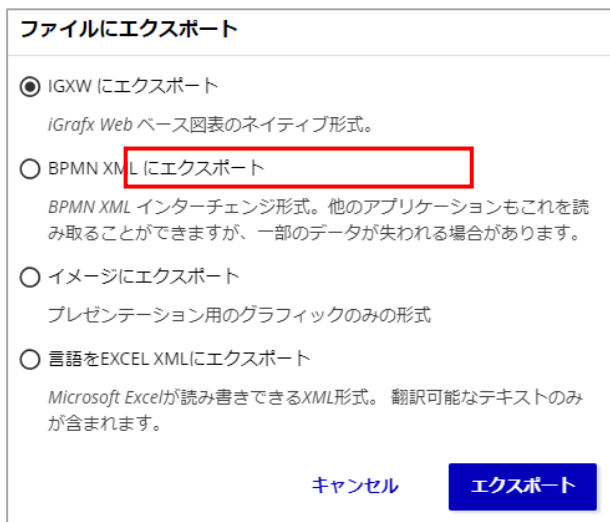
- ① 「ファイル」メニュー->「PDF に印刷」を選択します。



2. 保存

2.1 ファイルにエクスポート

Web Diagram の「ファイルにエクスポート」は、Web Diagram や他アプリケーションに取り込めるファイル形式に出力することができます。「ファイル」メニュー>「ファイルにエクスポート」を選択し、出力するファイル形式を選択して「エクスポート」を選択します。



| 項目 | 説明 |
|------------------|--|
| IGXW にエクスポート | iGrafx Web ベース図表のネイティブ形式。 |
| BPMN XML にエクスポート | BPMN XML インターチェンジ形式 他のアプリケーションも読み取り可能ですが、一部データが失われる場合があります。 |

| | |
|-----------------------|--|
| イメージにエクスポート | プレゼンテーション用のグラフィック（SVG/PNG/JPG）のみの形式。 |
| 言語を EXCEL XML にエクスポート | Microsoft Excel が読み書きできる XML 形式。 翻訳可能なテキストのみが含まれます。 |



<https://www.sunplanning.co.jp/>
